

**住民自治活動における男女共同参画に関するアンケート  
(市民／自治振興区)  
結果報告書**

**平成 28 年 9 月**

**庄原市 生活福祉部 市民生活課**

## 目次

アンケートの実施について	2
回答者の属性	4
自治振興区の会議や行事への参加について	7
会議での発言について	16
役員の登用について	22
性別による慣習や役割分担について	32
自治振興区での女性の活躍事例	37
女性参画のための取り組み	40

【資料】調査票（市民／自治振興区）

# アンケートの実施について

## はじめに

庄原市における男女共同参画に関する現状と市民意識や行政に対する要望を把握し、今後の事業に反映していくため、アンケート等による調査を実施しています。

今回は、「住民自治活動における男女共同参画」について、自治振興区と市民を対象にアンケートを行いました。本市の現状と課題を把握するとともに、平成 21 年度に実施した同様の調査との比較も行うこととしています。この結果を、行政と自治振興区、市民が共有して、男女がともに担う地域づくりに役立てたいと思います。

なお、庄原市男女共同参画プラン（後期計画）に、「庄原市の課題を明らかにするため、アンケートや意見交換会等による市民意識や実態の調査を毎年実施する」ことを明記しています。

## 1. 概要

項目	自治振興区対象	市民対象
調査対象	庄原市内の自治振興区	庄原市在住の 18 歳以上(平成 28 年 1 月 31 日現在)の男女
調査数	22 自治振興区	1,000 名
抽出方法	全自治振興区を対象とする。	住民基本台帳から無作為抽出。ただし、行政区別の配布数は、調査数の概ね 30%を均等割、残りを人口割として算出し、これを合わせたものとする。なお、抽出に際して、世帯が重複しないものとする。
調査方法	郵送による配布・回収	郵送による配布・回収
調査期間	平成 28 年 2 月 15 日～3 月 7 日	平成 28 年 2 月 12 日～2 月 29 日

## 2. 回収状況

	配布数	未着数	実質配布数	有効回収数	有効回収率
自治振興区アンケート	22	0	22	22	100.0%
市民アンケート	1,000	2	998	399	40.0%

### 《参考》市民アンケートの地域別回収率

	18 歳以上人口※			配布数 計			未着 計	回答数 計				回収率
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	回答無	計	
庄原	7,513	8,437	15,950	224	244	468	2	85	88	0	173	37.1%
西城	1,516	1,766	3,282	48	56	104	0	20	20	0	40	38.5%
東城	3,376	3,897	7,273	106	119	225	0	48	48	2	98	43.6%
口和	860	978	1,838	28	32	60	0	12	15	1	28	46.7%
高野	771	879	1,650	29	32	61	0	11	12	0	23	37.7%
比和	613	745	1,358	16	21	37	0	7	7	0	14	37.8%
総領	552	683	1,235	21	24	45	0	6	11	4	21	46.7%
回答無								0	0	2	2	
計	15,201	17,385	32,586	472	528	1,000	2	189	201	9	399	40.0%
構成比	46.6%	53.4%	100.0%	47.2%	52.8%	100.0%		47.4%	50.4%	2.3%	100.0%	

※平成 28 年 1 月 31 日現在

### 3. アンケートの内容

自治振興区対象	市民対象
<ul style="list-style-type: none"><li>・自治振興区の会議や行事への参加について</li><li>・会議での発言について</li><li>・役員の登用について</li><li>・性別による慣習や役割分担について</li><li>・自治振興区における女性の活躍事例</li><li>・市の男女共同参画施策に対する意見</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自治振興区の会議や行事への参加について</li><li>・会議での発言について</li><li>・役員の登用について</li><li>・性別による慣習や役割分担について</li><li>・女性の参画のための取り組みについて</li><li>・市の男女共同参画施策に対する意見</li></ul>

#### 《図表の見方》

- (1) 図表中のNまたはnとは、回答者総数または該当質問での該当者数を表します。
- (2) 集計は、小数第2位を四捨五入しています。そのため、数値の合計が100.0%とならない場合があります。
- (3) 回答の比率(%)は、該当質問の回答者数(Nまたはn)を基数として算出しています。そのため、複数回答の場合は全ての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。
- (4) クロス集計(別な要素への回答結果も含めた集計)のグラフや表の場合、表側項目の無回答(例えば、男女別の場合、男性、女性にも無回答)は省略しています。
- (5) 回答の選択肢の文字数が多い場合は、短く置き換えて表示しています。

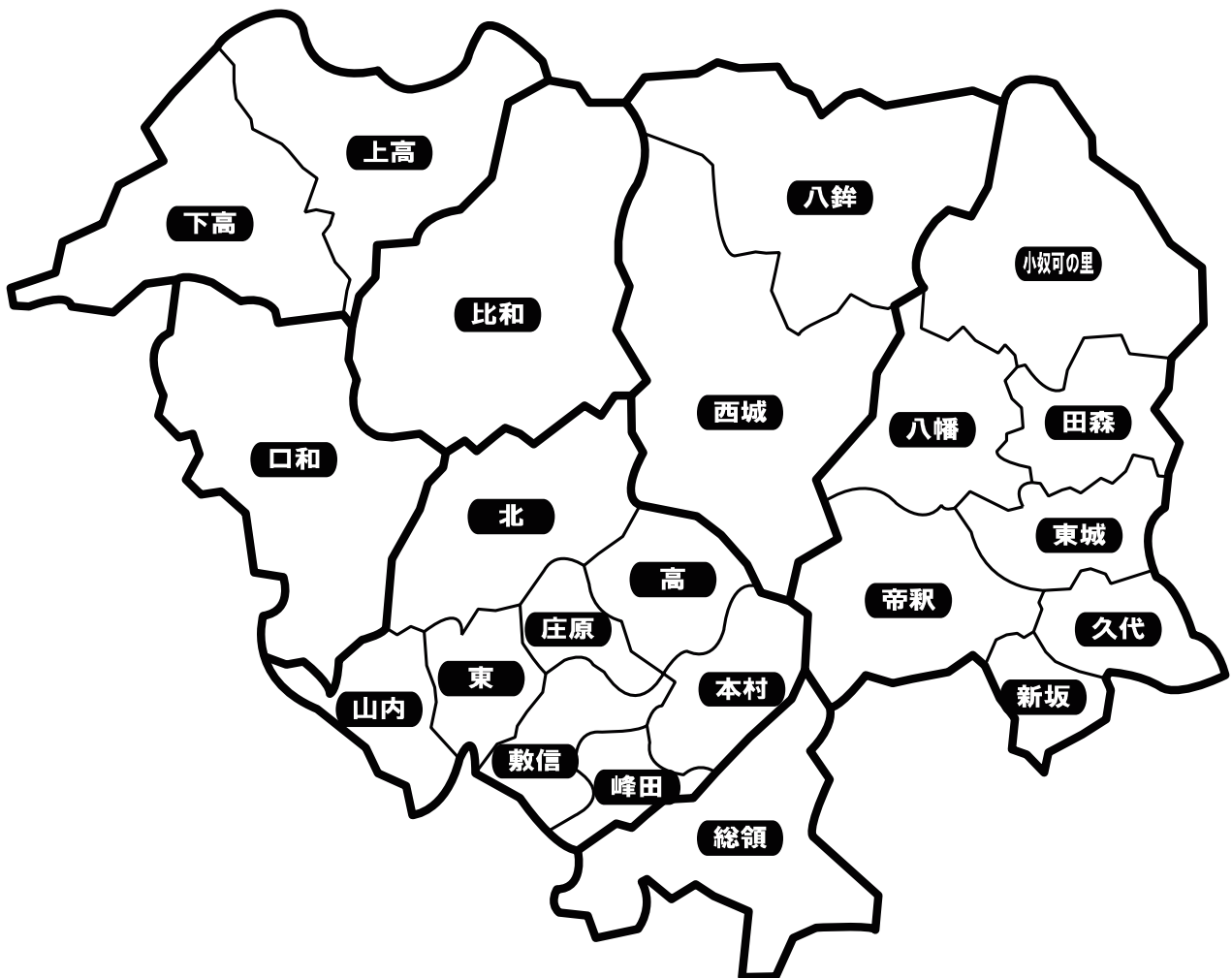
# 回答者の属性

## 1. 自治振興区アンケート

全 22 自治振興区

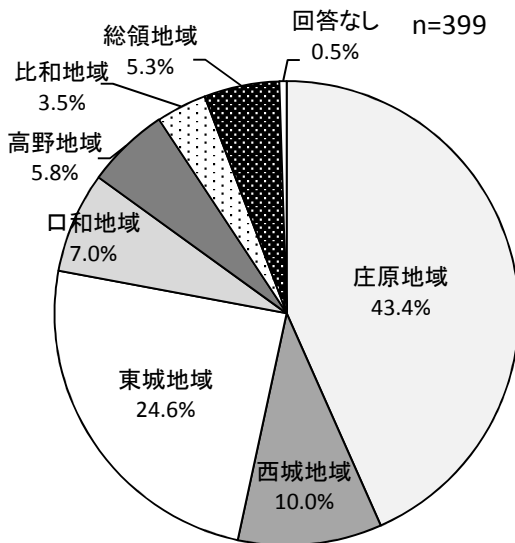
地域	自治振興区	人口	世帯数	地域	自治振興区	人口	世帯数
庄原	庄原自治振興区	6,132	2,709	東城	小奴可の里自治振興区	1,224	512
	高自治振興区	1,371	489		田森自治振興区	741	314
	本村自治振興区	672	270		八幡自治振興区	905	385
	峰田自治振興区	671	289		東城自治振興区	4,253	1,927
	敷信自治振興区	2,788	1,113		帝釈自治振興区	523	237
	東自治振興区	3,883	1,702		久代自治振興区	475	204
	山内自治振興区	1,731	737		新坂自治振興区	233	119
	北自治振興区	1,400	598		口和自治振興区	2,146	826
西城	西城自治振興区	3,162	1,243	高野	上高自治振興区	1,267	448
	八銚自治振興区	556	241		下高自治振興区	652	243
				比和	比和自治振興区	1,506	631
				総領	総領自治振興区	1,450	637
				市全体		37,741	15,874

※人口・世帯数は平成 27 年 10 月 1 日を基準とする。



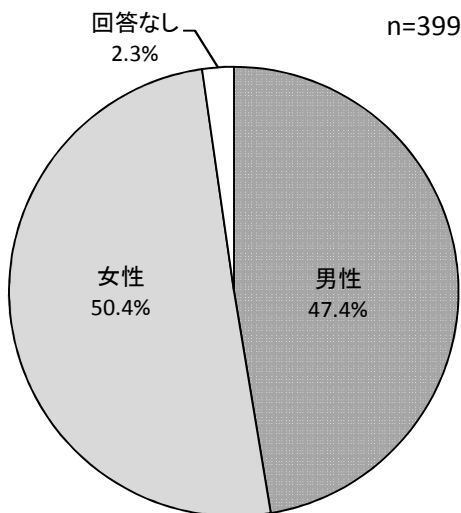
## 2. 市民アンケート

### (1) 地域



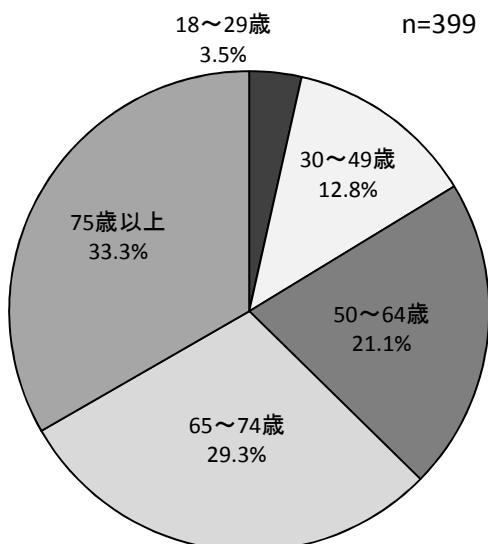
	人口	人口構成比	回答数	構成比	構成比 - 人口構成比
庄原地域	15,950	48.9%	173	43.4%	△ 5.5%
西城地域	3,282	10.1%	40	10.0%	△ 0.1%
東城地域	7,273	22.3%	98	24.6%	2.3%
口和地域	1,838	5.6%	28	7.0%	1.4%
高野地域	1,650	5.1%	23	5.8%	0.7%
比和地域	1,358	4.2%	14	3.5%	△ 0.7%
総領地域	1,235	3.8%	21	5.3%	1.5%
回答なし		0.0%	2	0.5%	0.5%
計	32,586	100.0%	399	100.0%	

### (2) 性別



	人口	人口構成比	回答数	構成比	構成比 - 人口構成比
男性	15,201	46.6%	189	47.4%	0.8%
女性	17,385	53.4%	201	50.4%	△ 3.0%
回答なし		0.0%	9	2.3%	2.3%
計	32,586	100.0%	399	100.0%	

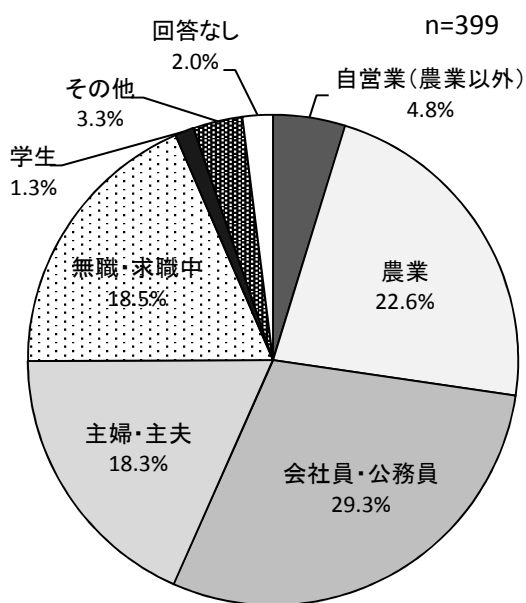
### (3) 年齢



	人口	人口構成比	回答数	構成比	構成比 - 人口構成比
18～29歳	3,370	10.3%	14	3.5%	△ 6.8%
30～49歳	6,913	21.2%	51	12.8%	△ 8.4%
50～64歳	7,147	21.9%	84	21.1%	△ 0.8%
65～74歳	5,936	18.2%	117	29.3%	11.1%
75歳以上	9,220	28.3%	133	33.3%	5.0%
計	32,586	100.0%	399	100.0%	

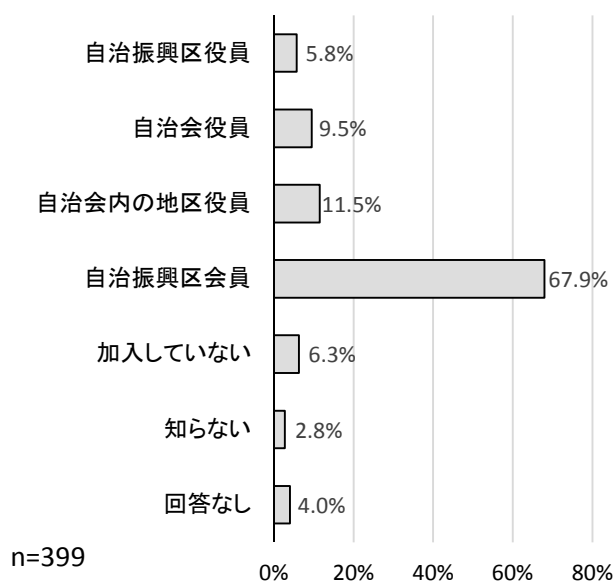
## 2. 市民アンケート（続き）

### （4）職業



	回答数	構成比
自営業（農業以外）	19	4.8%
農業	90	22.6%
会社員・公務員	117	29.3%
主婦・主夫	73	18.3%
無職・求職中	74	18.5%
学生	5	1.3%
その他	13	3.3%
(回答なし)	8	2.0%
計	399	100.0%

### （5）自治振興区との関わり



	回答数	構成比
自治振興区役員	23	5.8%
自治会役員	38	9.5%
自治会内の地区役員	46	11.5%
自治振興区会員	271	67.9%
加入していない	25	6.3%
知らない	11	2.8%
(回答なし)	16	4.0%
計	430	107.8%

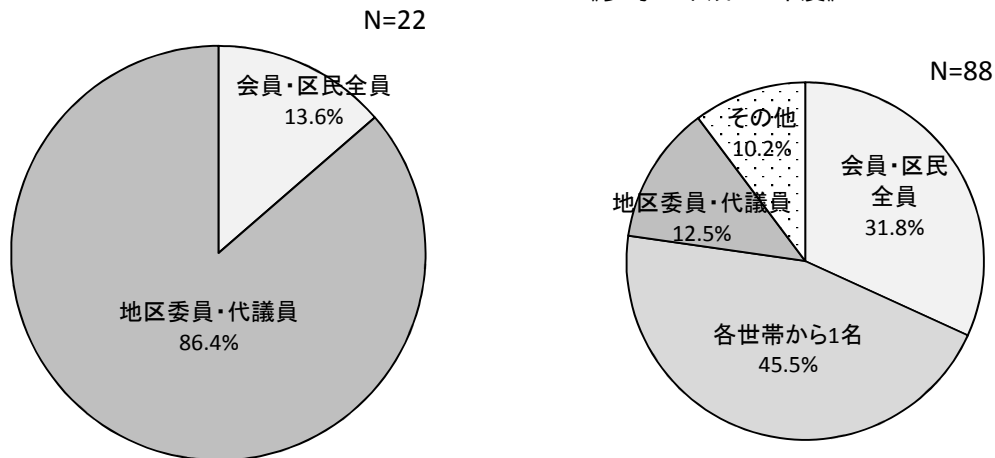
※構成比の基数は回答者数の 399。自治振興区役員、自治会役員、自治会内の地区役員を兼ねる人がいるため、100.0%を超える。

# 自治振興区の会議や行事への参加について

## 1. 総会に出席する方の資格

【自治振興区アンケート】

《参考 平成 21 年度》



総会に出席する資格は、「地区委員・代議員」が8割以上を占めています。また、認可地縁団体となっている自治振興区など約1割で「会員・区民全員」としています。「地区委員・代議員」と回答した自治振興区のうち、「その他」として、「各団体の代表」、「外部団体」、「各サークル、団体」と回答しています。

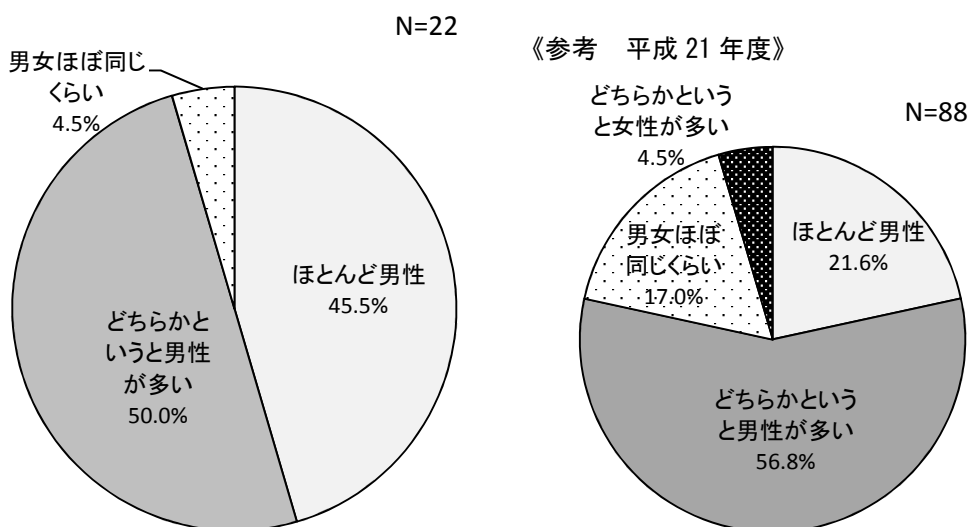
平成 21 年度の調査時点では、市内に 88 の自治振興区があり、世帯数が 100 世帯以下の自治振興区が半数を超えていました。総会に出席する資格は、「各世帯から 1 名」が約半数、「会員全員」が約 3 割であり、現在は多数を占める「地区委員・代議員」は約 1 割でした。

自治振興区の再編により、現在は 1 つの自治振興区あたりの世帯数が増え、出席資格を「地区委員・代議員」としている自治振興区が大幅に増加したと考えられます。

## 2. 総会の出席状況

【自治振興区アンケート】

《参考 平成 21 年度》

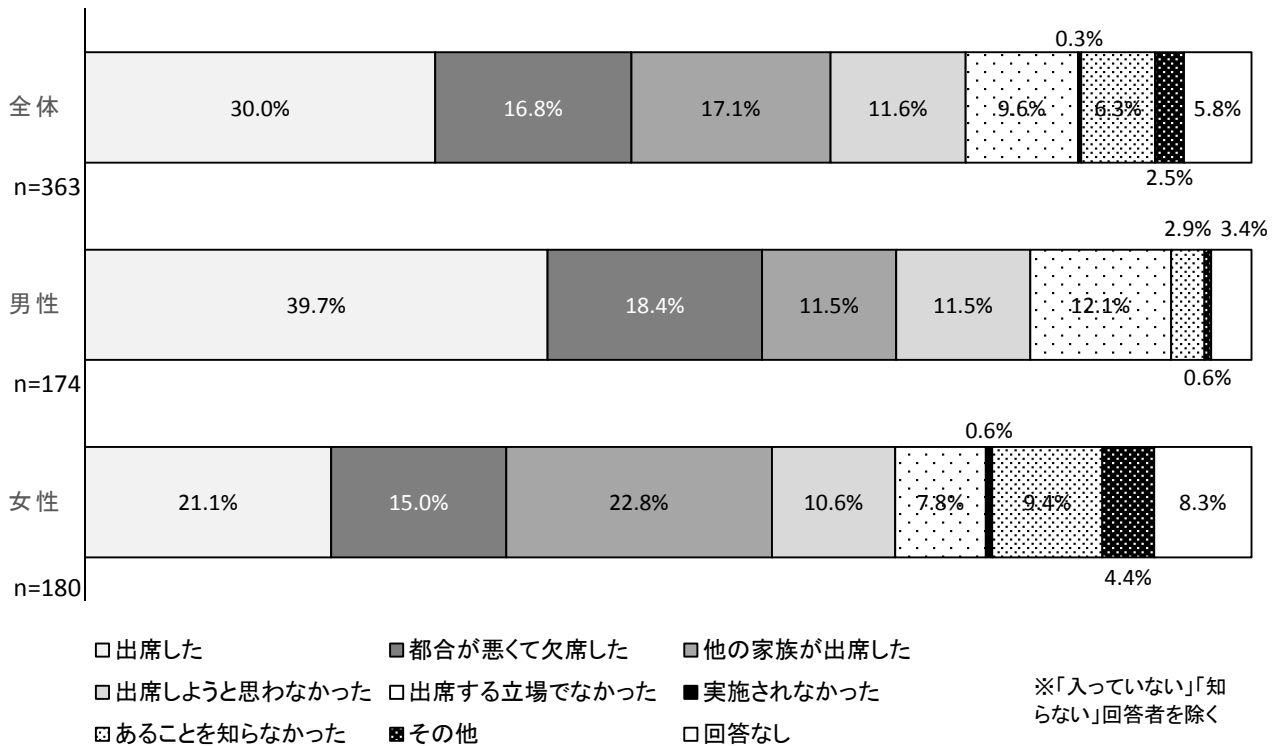


平成 27 年度の総会への出席状況は、「ほとんど男性」が 45.5%、「どちらかというとな性が多い」が 50%と、男性の出席者が多いとの回答が 9 割を超えています。平成 21 年度と比較して、男性の割合が増えたことがわかります。自治振興区の規模が大きくなったことにより、出席資格が変わったことも影響していると考えられます。

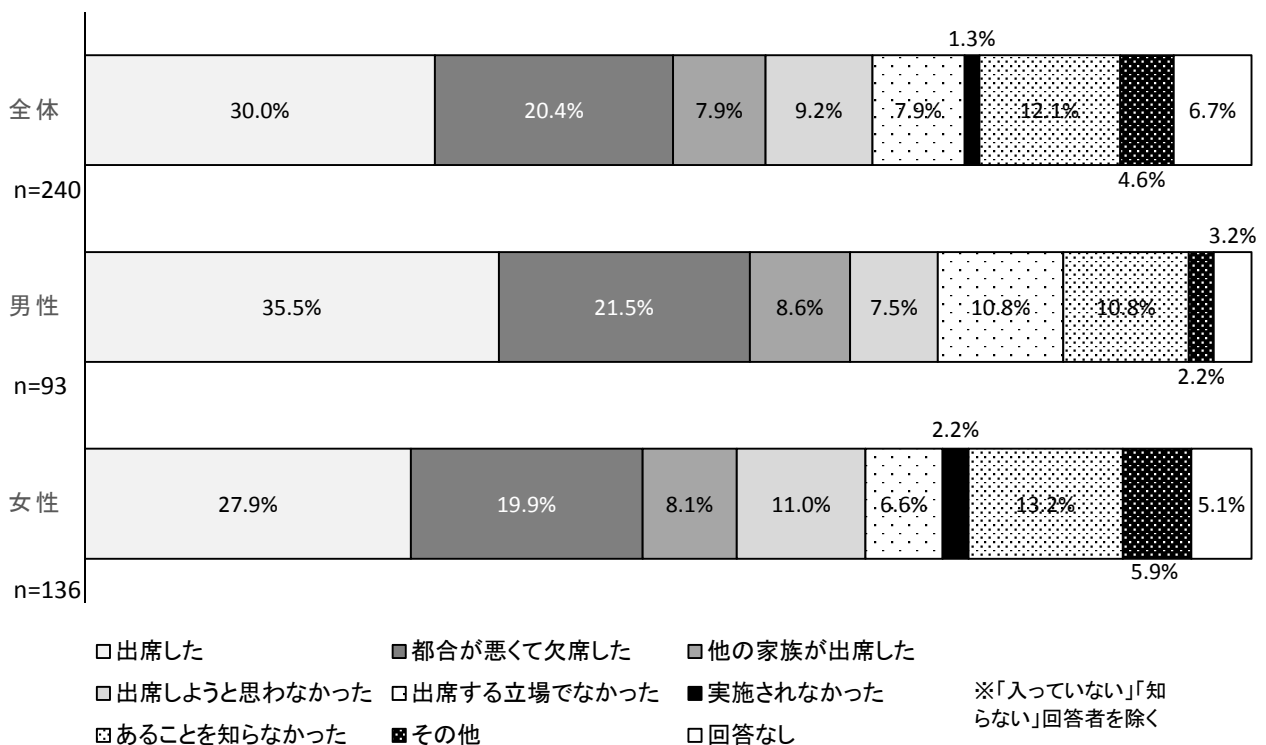


## 2. 総会の出席状況（続き）

【市民アンケート】



《参考 平成 21 年度》

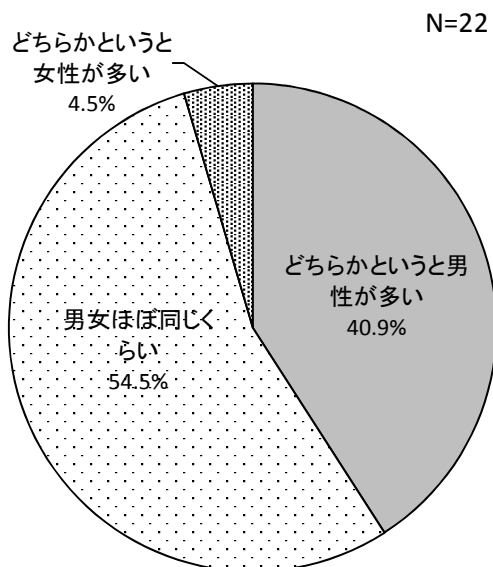


総会に「出席した」人の割合は、男性が約4割、女性が約2割で、自治振興区のアンケートの結果と同様に男性が多い傾向が見られました。また、「他の家族が出席した」との回答の内訳は、「夫」が33.3%、「子（男性）」が27.5%、「父」が11.6%と男性の家族が7割以上を占めています。

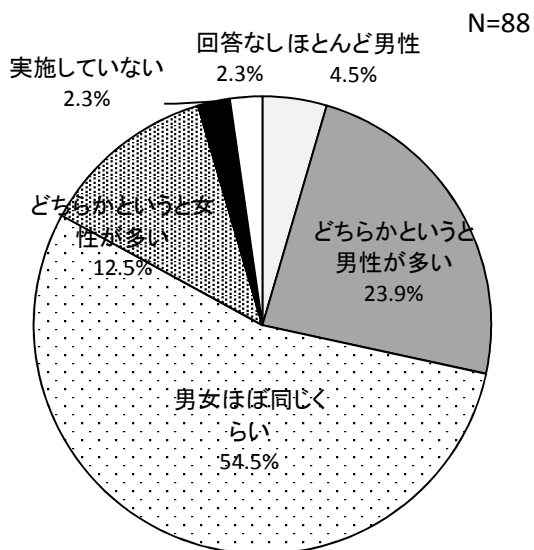
平成21年度と比較して、「出席した」と回答した割合が、男性では増加しているのに対して、女性では減少していることがわかります。

### 3. 親睦行事の参加状況

【自治振興区アンケート】



《参考 平成 21 年度》

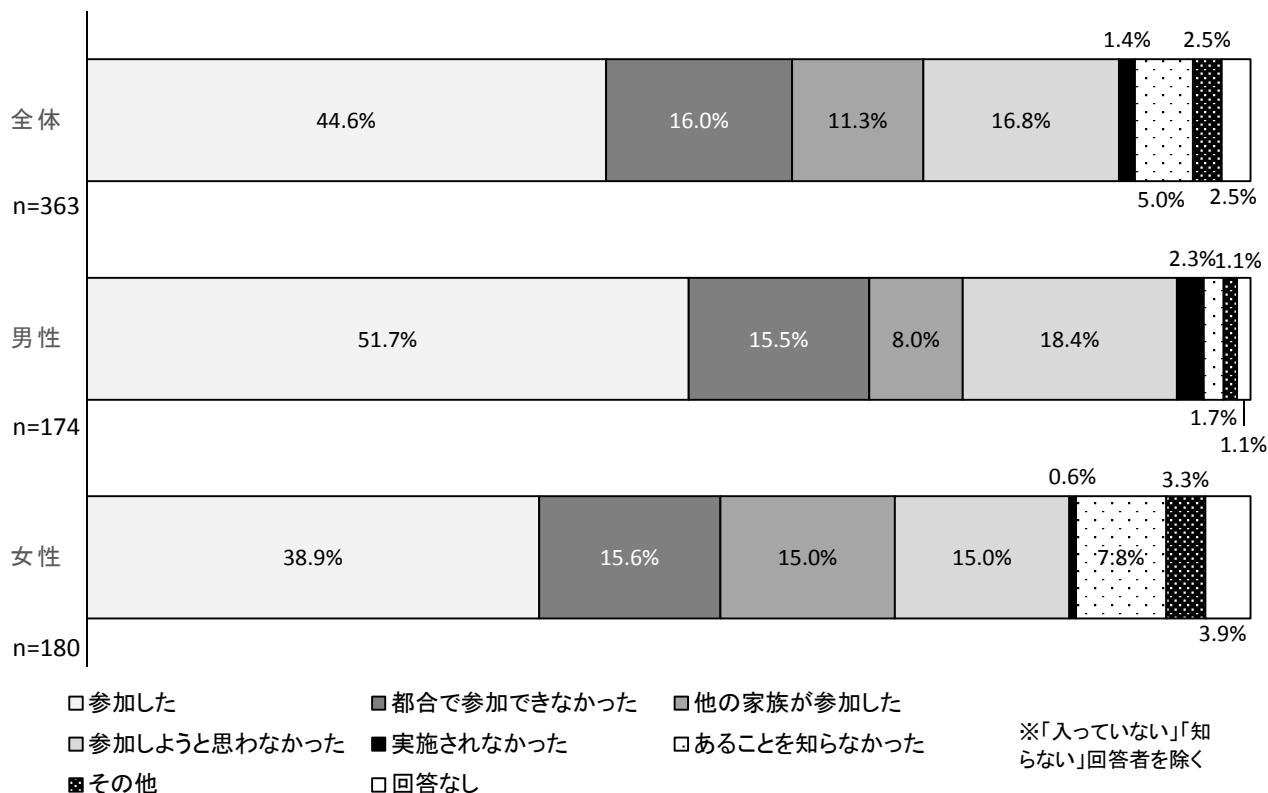


新年会やスポーツ（グラウンドゴルフ等）による交流会など、自治振興区の親睦行事への参加状況は、平成 27 年度では「男女ほぼ同くらい」が半数を超えています。

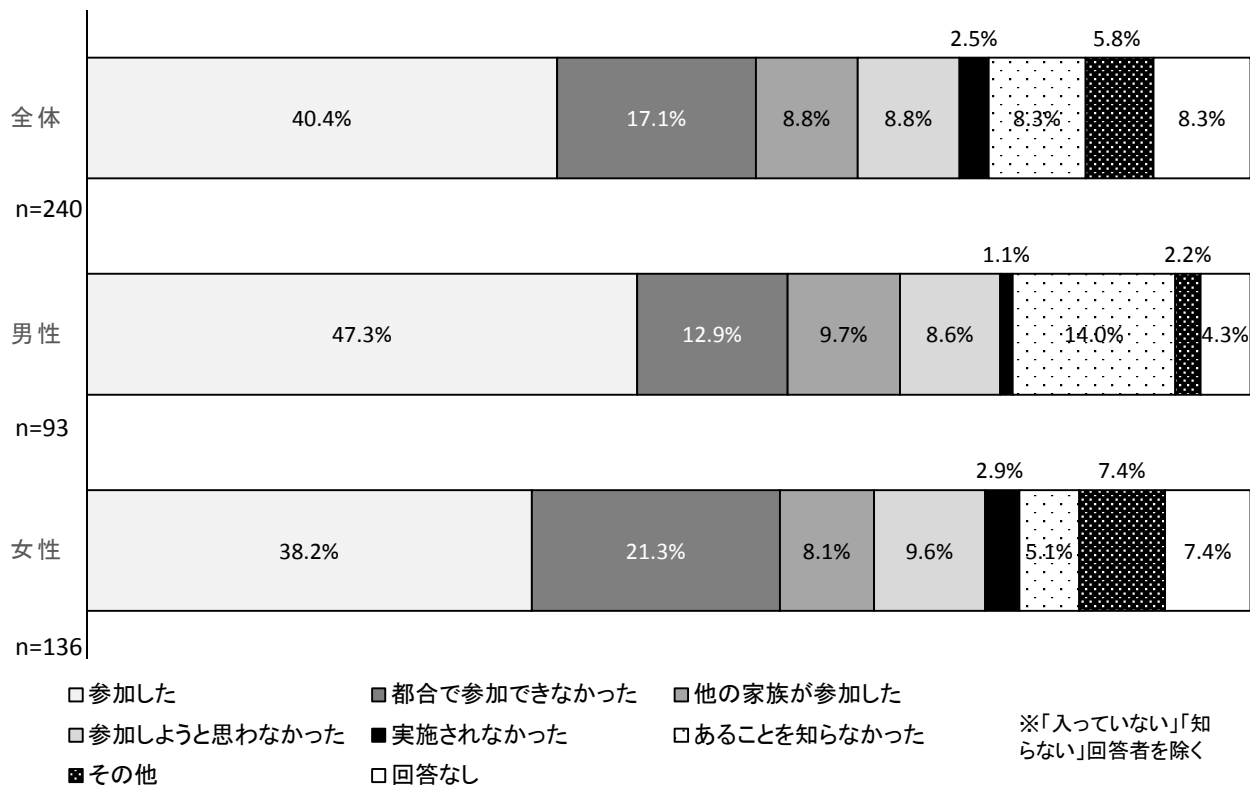
平成 21 年度と比較すると、「どちらかというと男性が多い」が増加し、「どちらかというと女性が多い」が減少しています。

### 3. 親睦行事の参加状況（続き）

【市民アンケート】



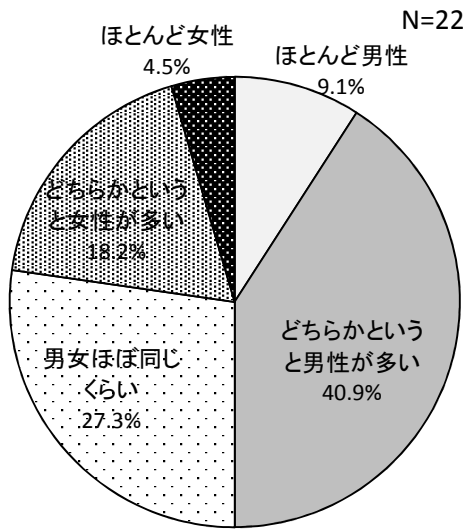
《参考 平成 21 年度》



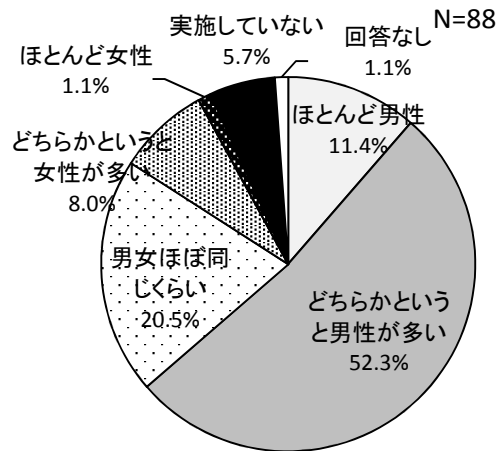
親睦行事への参加状況は、「参加した」と回答した割合が、男性が約5割、女性が約4割と男性の割合が少し高くなっています。平成21年度と比較すると、「参加した」との回答が全体、男性、女性いずれも増加しています。

## 4. 学習会等の参加状況

【自治振興区アンケート】

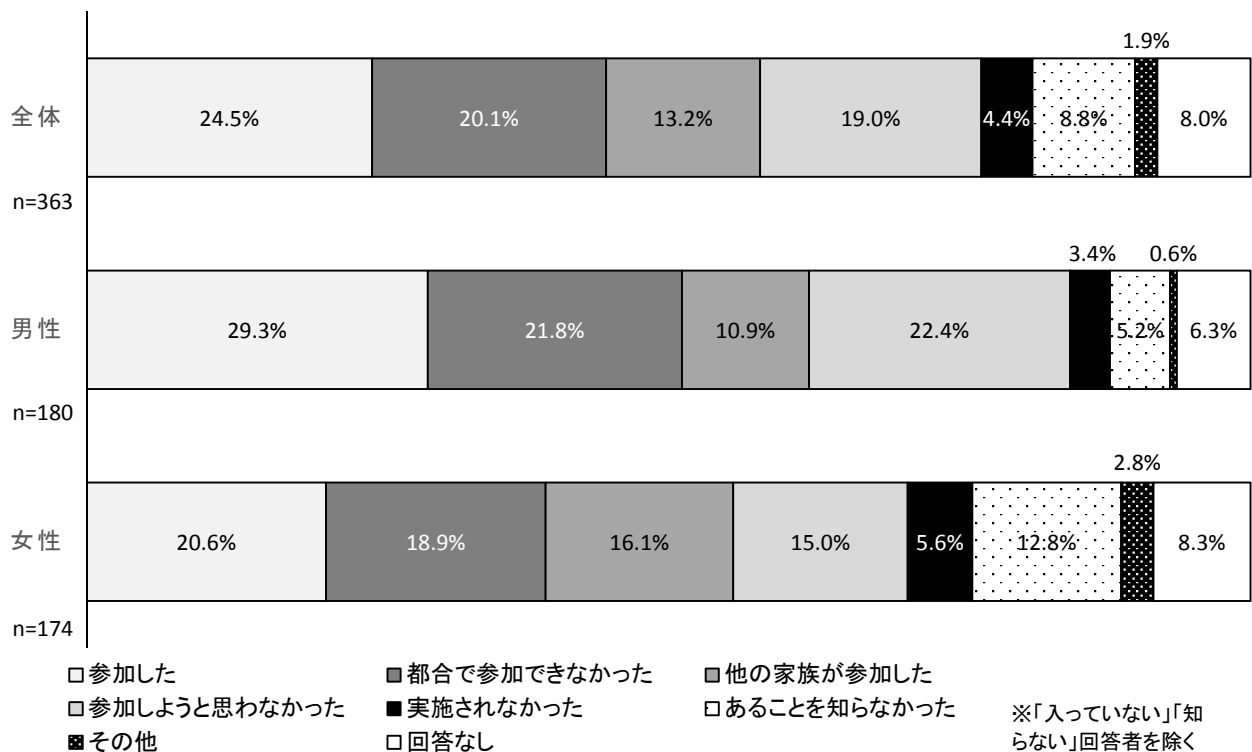


《参考 平成 21 年度》



自治振興区の会員を対象とした学習会・説明会・研修会の参加状況は、平成 27 年度は「ほとんど男性」「どちらかというと男性が多い」を合わせて 5 割を占めます。一方で、「男女ほぼ同じくらい」が約 3 割、「どちらかというと女性が多い」「ほとんど女性」を合わせて約 2 割と、平成 21 年度と比較して女性の参加割合が増加しています。

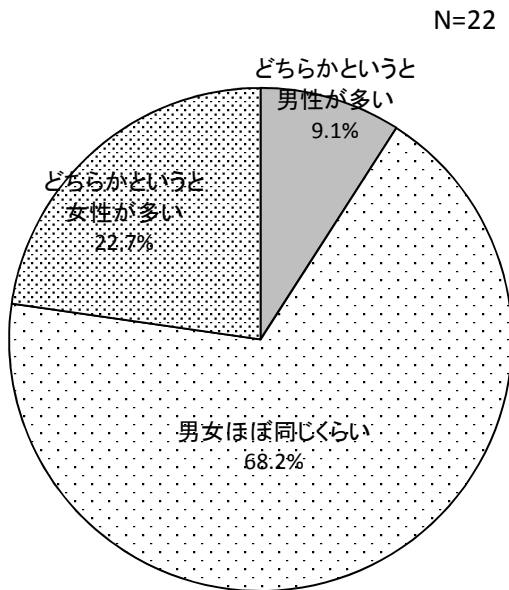
【市民アンケート】



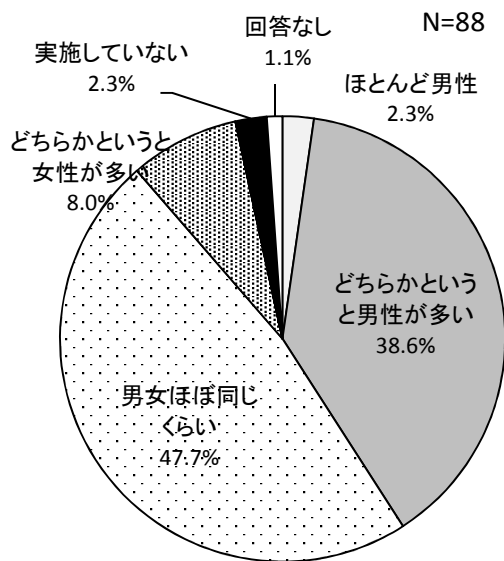
学習会等への参加状況は、「参加した」と回答した割合が、男性が約 3 割、女性が約 2 割と男性の割合が少し高くなっています。「参加した」との回答を平成 21 年度と比較すると、男性は 21 年度：26.9%⇒27 年度：29.3%、女性は 21 年度：19.1%⇒27 年度：20.1%といずれもわずかに増加していますが、親睦行事と比較して少ない結果となっています。

## 5. 地域づくり活動の参加状況

【自治振興区アンケート】



《参考 平成 21 年度》

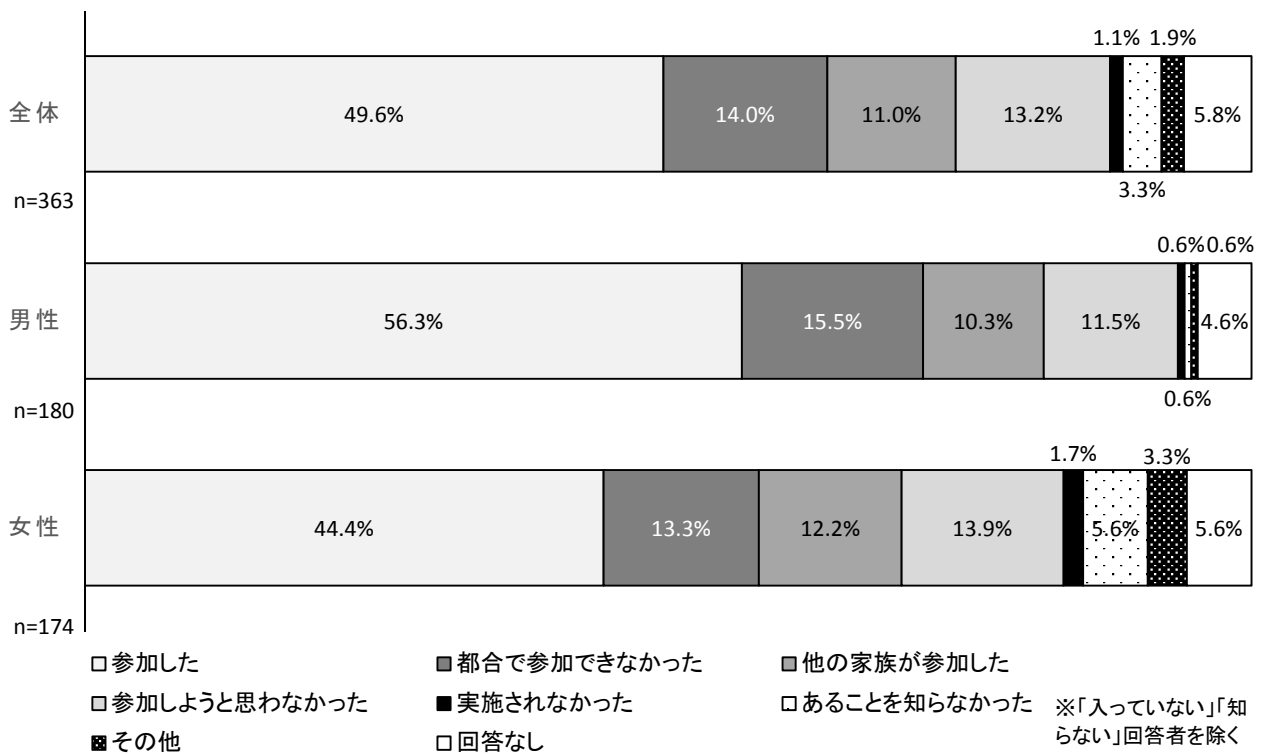


ふるさと祭、交流イベント、特産品づくり、環境整備などの地域づくり活動への参加状況は、平成 27 年度では「男女ほぼ同じくらい」が約 7 割を占めています。「どちらかというと男性が多い」が約 1 割に対して、「どちらかというと女性が多い」は約 2 割と女性の参加が多いことがわかります。

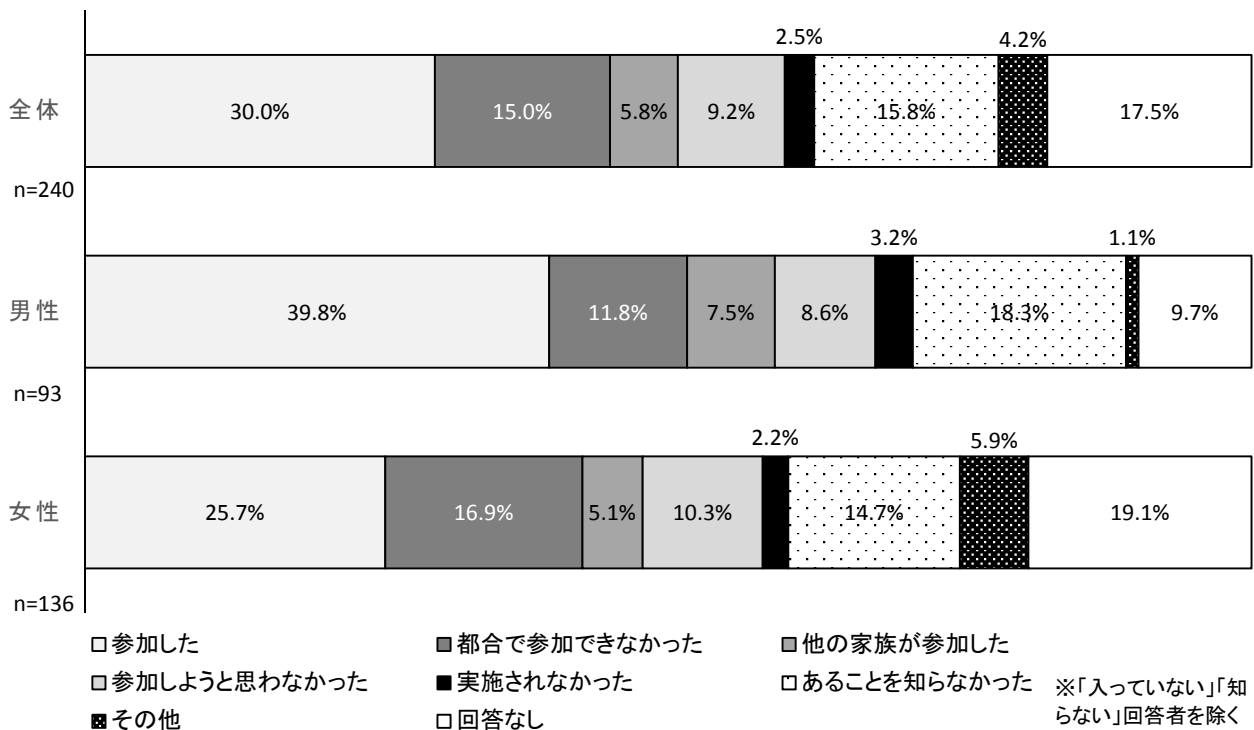
平成 21 年度と比較しても、女性の参加割合が増えています。

## 5. 地域づくり活動の参加状況（続き）

【市民アンケート】



《参考 平成 21 年度》

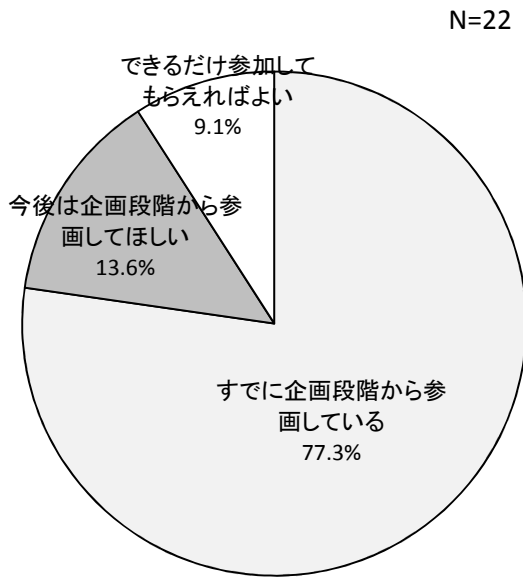


地域づくり活動への参加状況は、「参加した」と回答した割合が、全体で約5割を占め、「参加しようと思ったが都合で参加できなかった」を合わせると参加または参加の意向のある方が6割以上を占め、他の行事と比較してその割合が高くなっています。

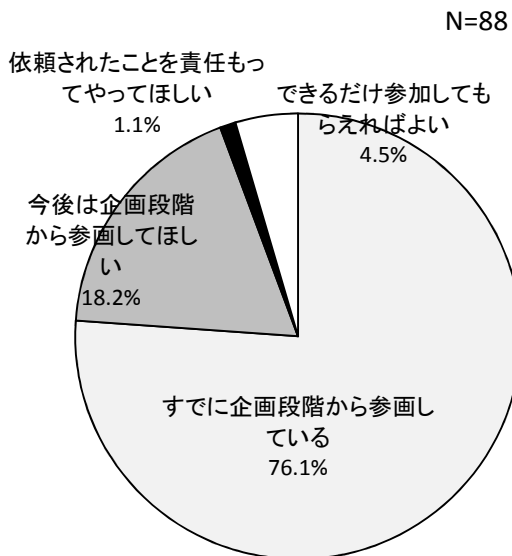
平成 21 年度と比較すると、「参加した」との回答が、全体、男性、女性いずれも増加しています。

## 6. 会議や行事への女性の関わり方について

【自治振興区アンケート】



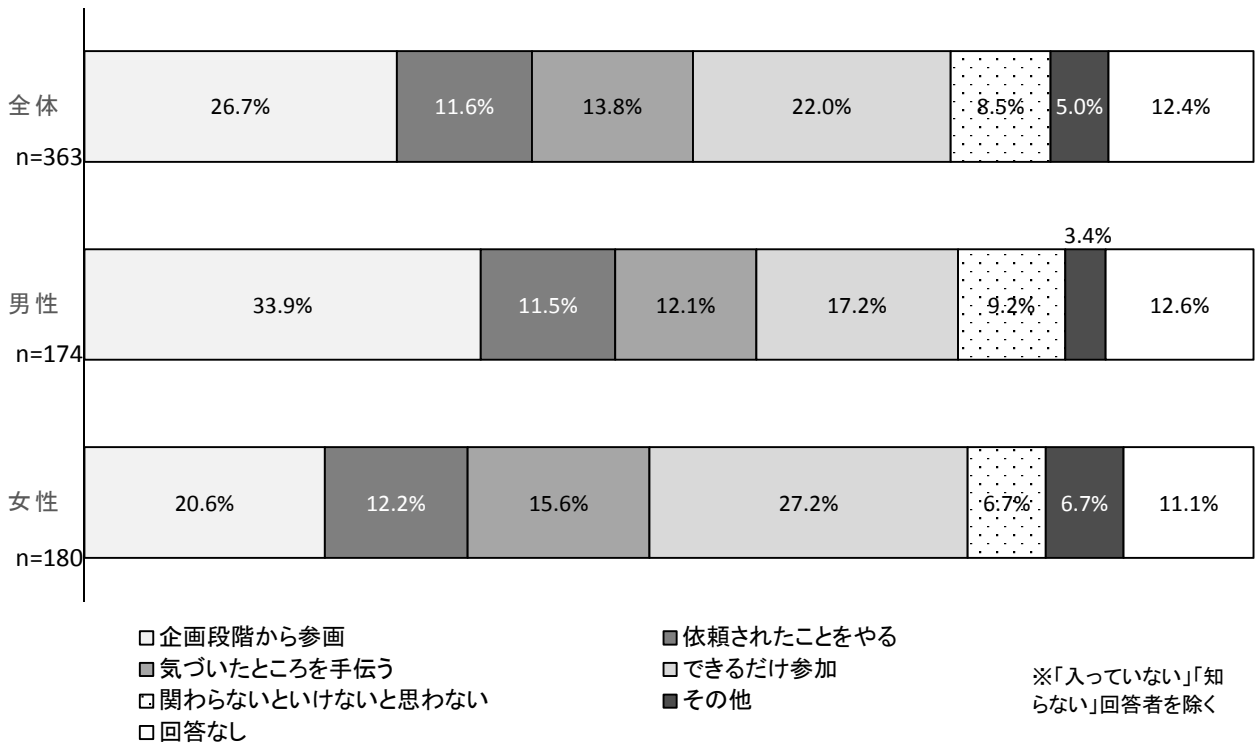
《参考 平成 21 年度》



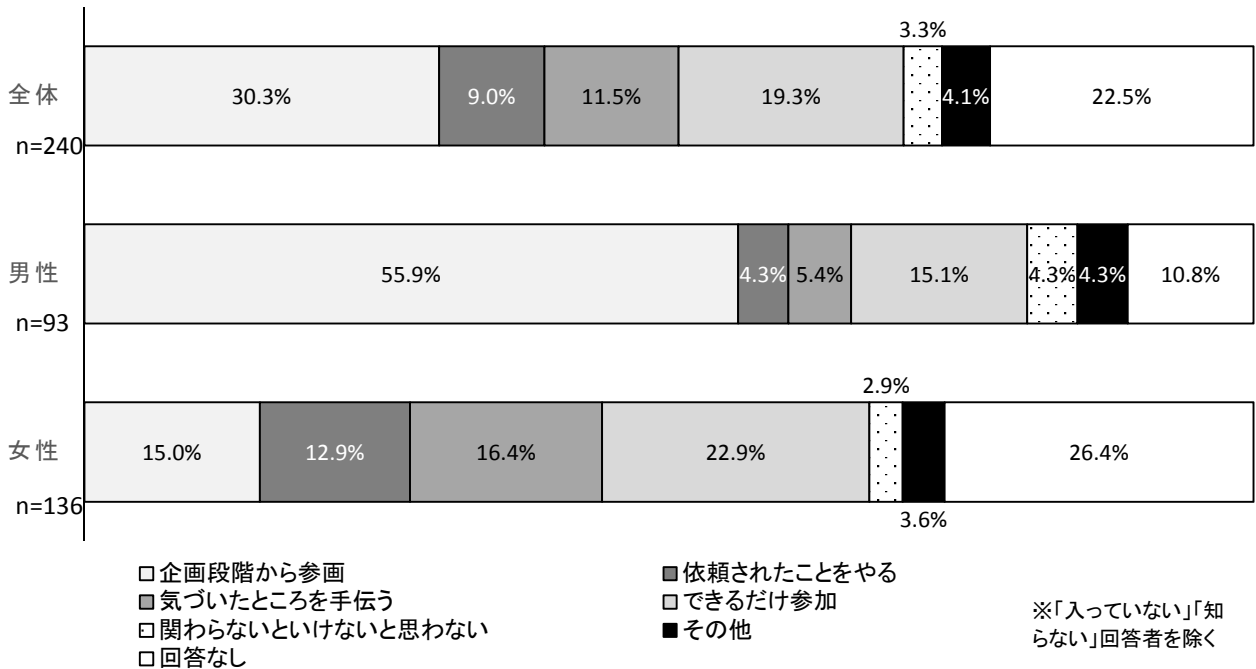
約 8 割の自治振興区が、自治振興区の活動への女性の参画について、「すでに役員やスタッフとして企画段階から参画している」と回答しています。その理由として、「幅広い意見が出されて、内容が充実する。」、「地域はみんなで創るもの。みんなが主役。」、「全体が活発化する。」などの回答がありました。

## 6. 会議や行事への女性の関わり方について（続き）

【市民アンケート】



《参考 平成 21 年度》



「自治振興区の活動に女性がどのように関わったらよいか」との質問に対し、男性は約3割、女性は約2割が「企画段階から参画する」と回答しています。「企画段階から参画する」との回答を平成21年度と比較すると、男性は21年度：55.9%⇒27年度：33.9%と大幅に減少しているのに対し、女性は21年度：15.4%⇒27年度：20.6%と増加しています。しかし、女性の回答で最も多いのは「案内があったらできるだけ参加」であり、自治振興区の考え方とは異なり、女性自身は積極的な考えの人がまだ少ないようです。



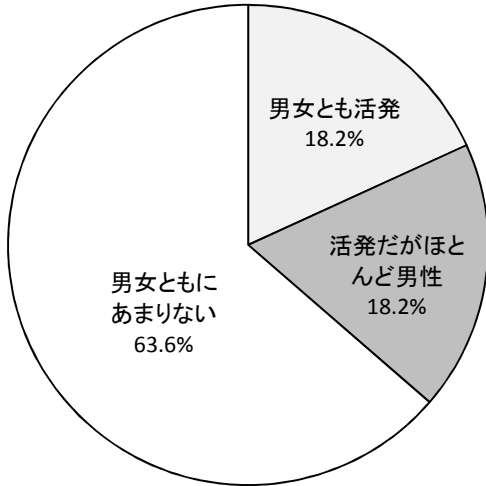
# 会議での発言について

## 1. 発言の状況

【自治振興区アンケート】

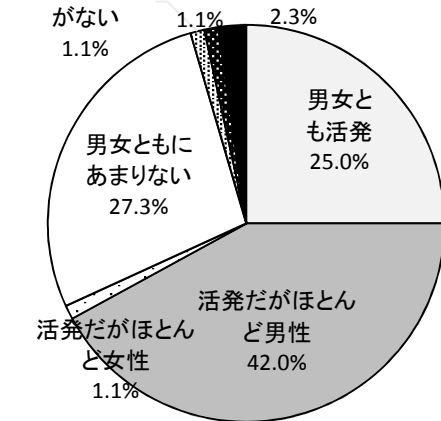
会議等での発言①総会

N=22



《参考 平成 21 年度》

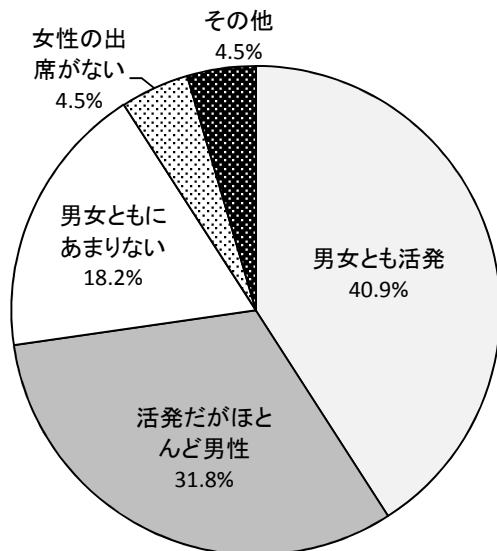
女性の出席者 その他 回答なし N=88



自治振興区の総会での発言状況は、「男女ともあまり発言はない」が6割を超えて多数を占めています。自治振興区の規模が大きくなり、総会の出席要件が変わったことが影響していると考えられます。平成 21 年度と比較すると、「男女ともあまり発言はない」が倍増し、「活発に発言があるが、発言するのはほとんど男性」が半減しています。

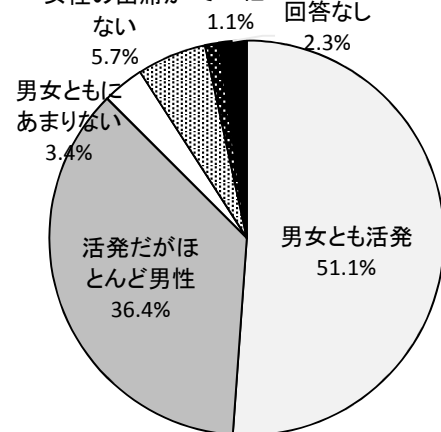
会議等での発言②役員会

N=22



《参考 平成 21 年度》

女性の出席が その他 回答なし N=88

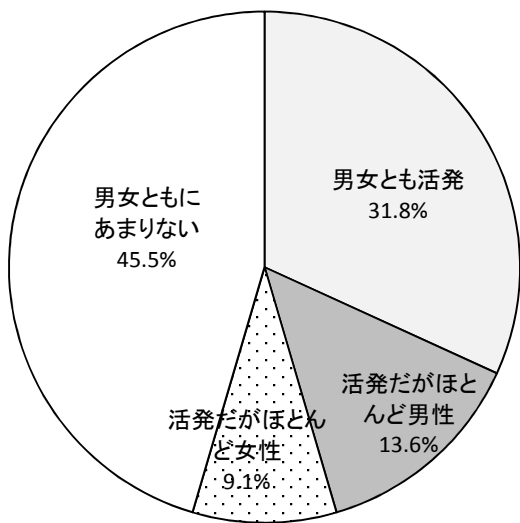


自治振興区の役員会での発言状況は、「男女とも活発に発言している」が4割と最も多くなっています。平成 21 年度と比較すると、「活発に発言」という回答が減少し、「男女ともあまり発言はない」が大幅に増加しています。

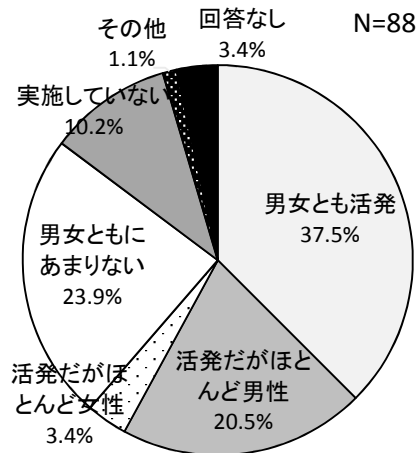
# 1. 発言の状況（続き）

【自治振興区アンケート】

会議等での発言③学習会等 N=22

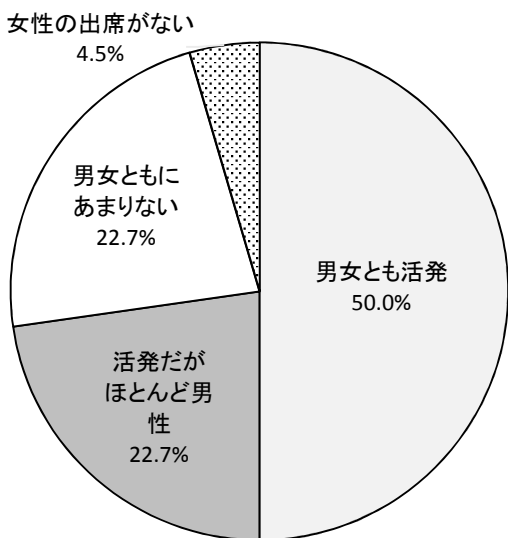


《参考 平成 21 年度》

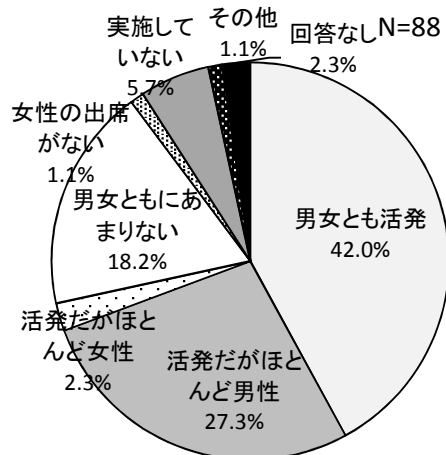


自治振興区の学習会等での発言状況は、「男女ともにあまり発言はない」が4割以上と最も多くなっています。平成 21 年度と比較すると、「男女ともに活発に発言している」「活発だがほとんど男性」が減少している一方で、「活発だがほとんど女性」が増加しています。

会議等での発言④企画会議 N=22



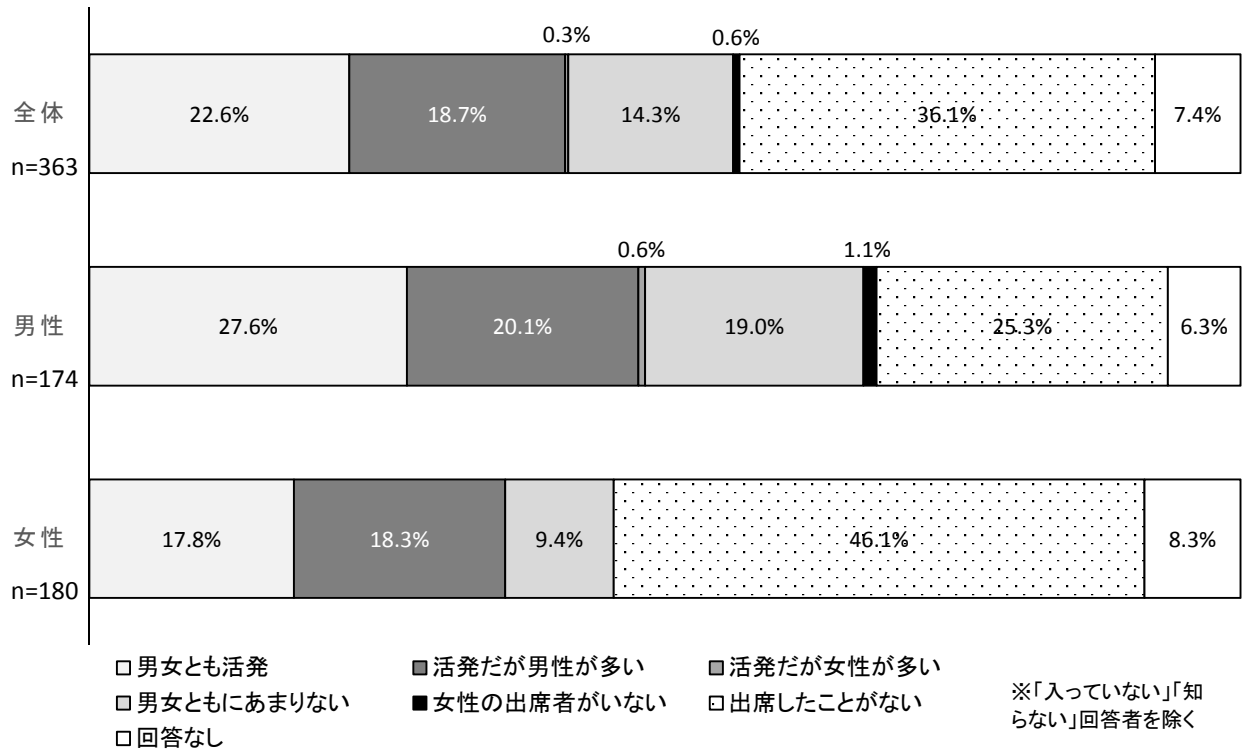
《参考 平成 21 年度》



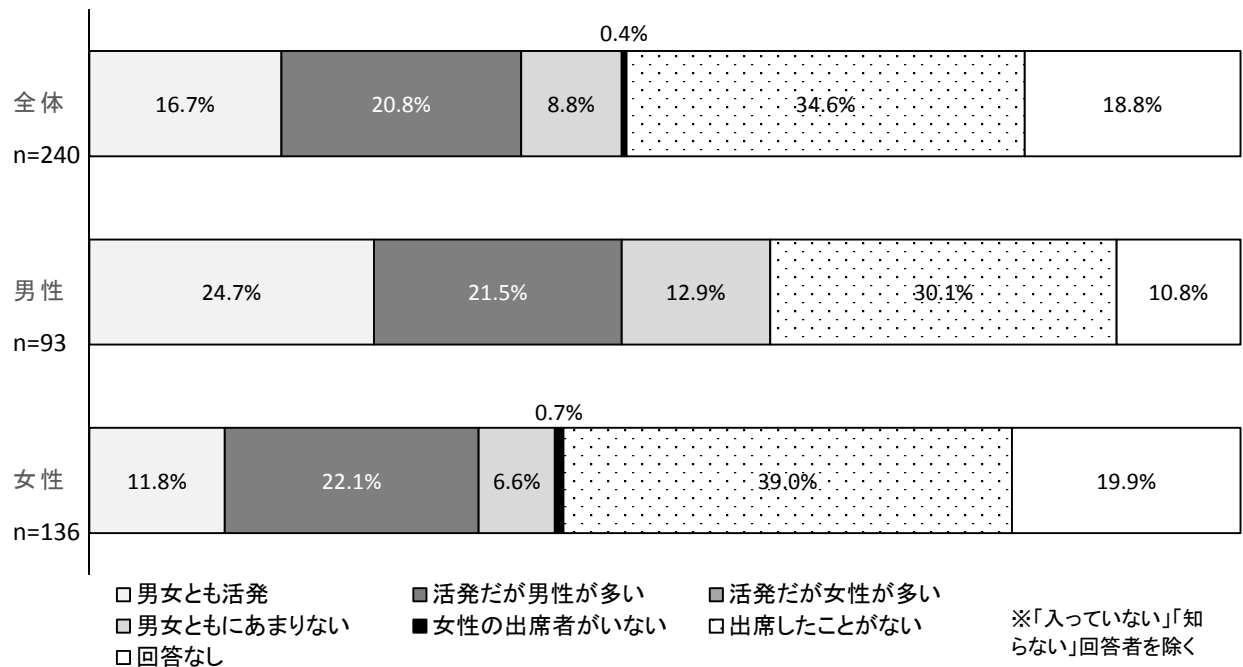
自治振興区の地域づくりのための企画会議での発言状況は、「男女ともに活発に発言している」が5割を占め、平成 21 年度よりも増加しています。参加状況においても、他の行事と比べて地域づくり活動への女性の参加が多くなっていることにも表れているように、地域づくり活動においては男女ともに活発に発言して共に担っていることがわかります。

# 1. 発言の状況（続き）

【市民アンケート】



《参考 平成 21 年度》

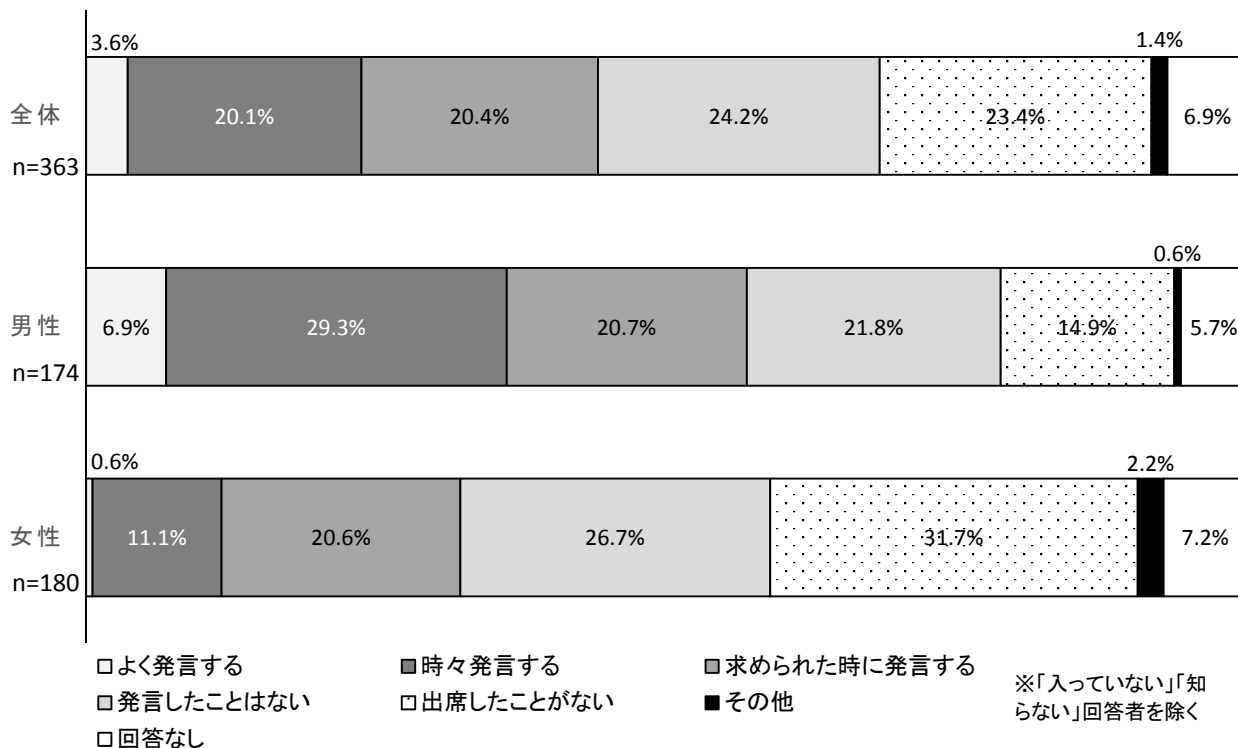


市民から見た自治振興区の会議での発言状況は、「出席したことがない」が最も多い回答となっています。これも自治振興区の規模が大きくなり、総会の出席要件が変わったことが影響していると考えられます。

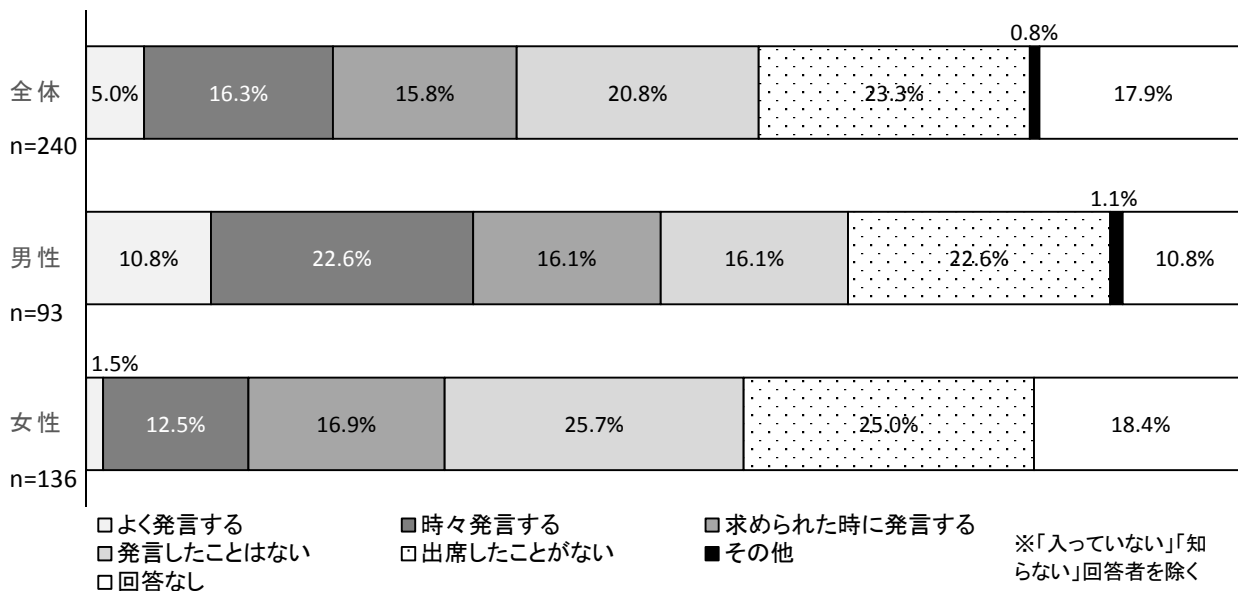
平成 21 年度と比較すると、「男女とも活発に発言している」と「男女ともあまり発言がない」の割合が増加し、「活発だがほとんど男性」が減少しています。

## 2. 会議等での発言の経験

【市民アンケート】



《参考 平成 21 年度》

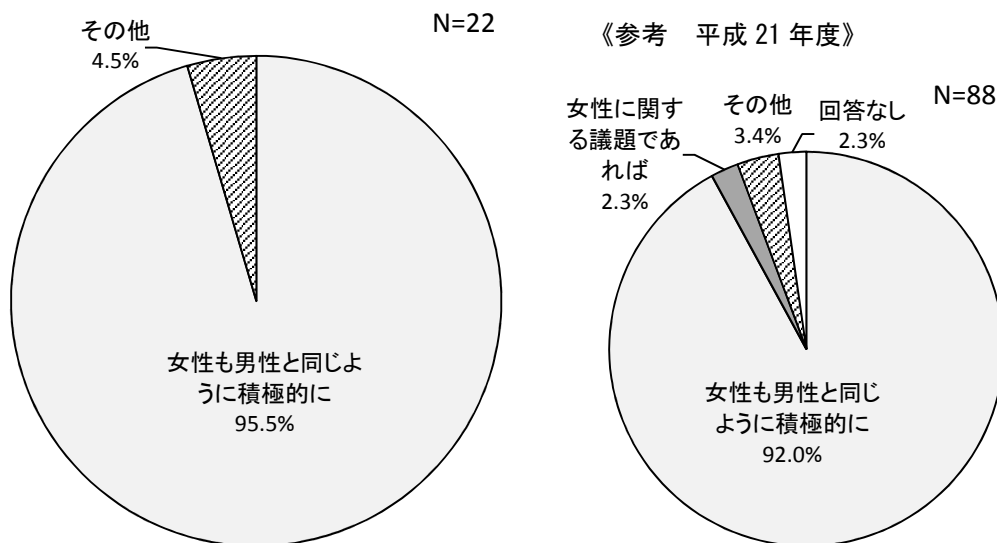


自治振興区の会議等での発言について、「よく発言する」「時々発言する」「発言を求められた時に発言する」を合わせると、全体で 44.1% でした。男性が 56.9% に対して女性は 32.3% に留まっています。平成 21 年度の結果では、「よく発言する」「時々発言する」「発言を求められた時に発言する」の合計が全体 37.1%、男性 49.5%、女性 30.9% であり、発言する人の割合が若干増加したことがわかります。

しかし、女性では「発言したことはない」「出席したことがない」の回答の合計が約 6 割に及び、会議の出席状況と同様にこの傾向が見られます。

### 3. 会議等での女性の発言に対する雰囲気

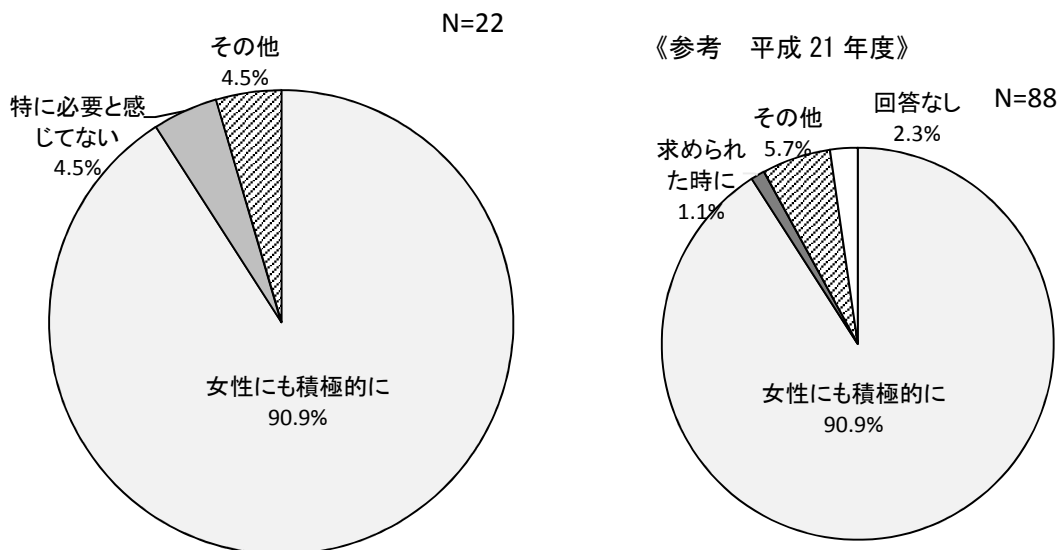
【自治振興区アンケート】



「自治振興区の会議等で女性が発言することについて、会議の場でどのような雰囲気があるか」との問いに対して、ほぼ全ての自治振興区が「女性も男性も同じように積極的に意見を言ったらよい」と回答しています。また、その他とした自治振興区も「男女差が問われる雰囲気はない」と回答しており、出席者には積極的に意見を出してほしい雰囲気であることがわかります。

### 4. 会議等での女性の発言に対する考え方

【自治振興区アンケート】

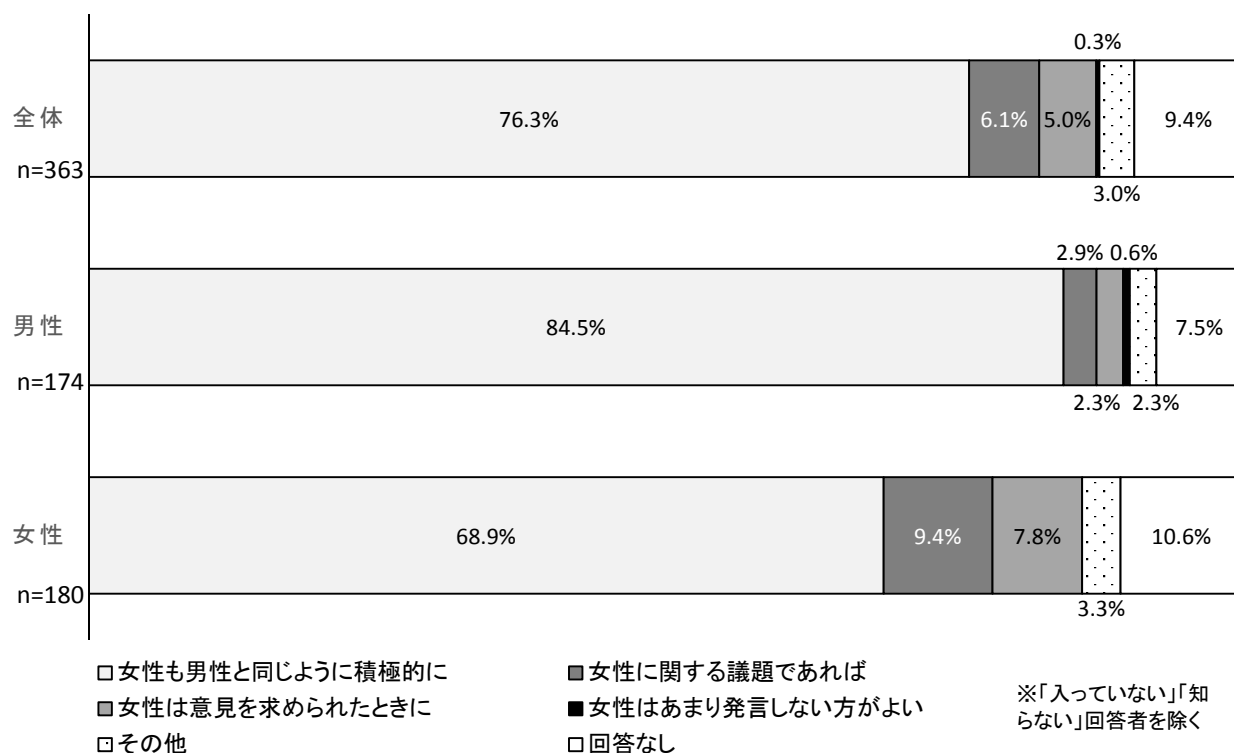


「会議で女性が発言することに対する自治振興区の考え方」についても、ほぼ全ての自治振興区が「女性にも積極的に意見を言ってほしい」と回答しています。

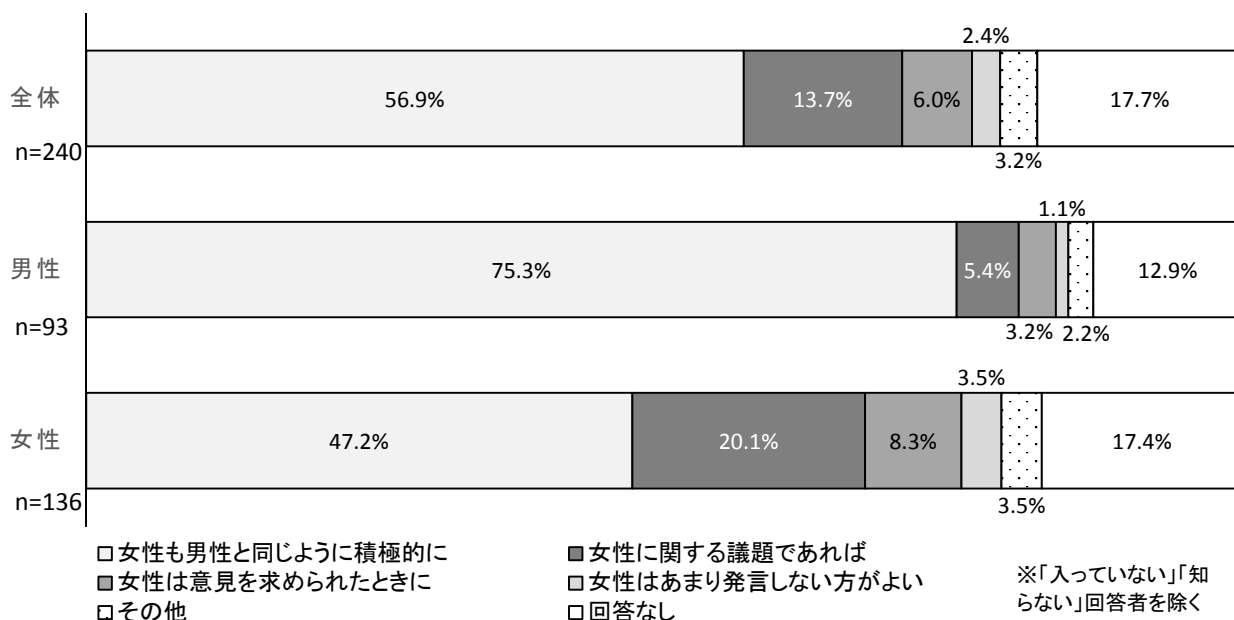
「特に必要と感じてない」と回答した自治振興区は、女性役員の割合が5割であり、現時点で女性が発言することが当然であるためと考えられます。また、その他と回答した自治振興区（女性役員割合4割）からは、「女性の発言というくくりで考えたことがない。女性部も設けていない。」との回答がありました。

#### 4. 会議等での女性の発言に対する考え方（続き）

【市民アンケート】



《参考 平成 21 年度》



自治振興区など地域の会議で女性が発言することに対する考え方については、7割以上が「女性も男性と同じように積極的に意見を言うべき」と回答しています。男性が84.5%、女性が68.9%と男性の方が回答した割合が高くなっています。平成21年度と比較すると、特に女性でその割合が大きく増えています。

# 役員の登用について

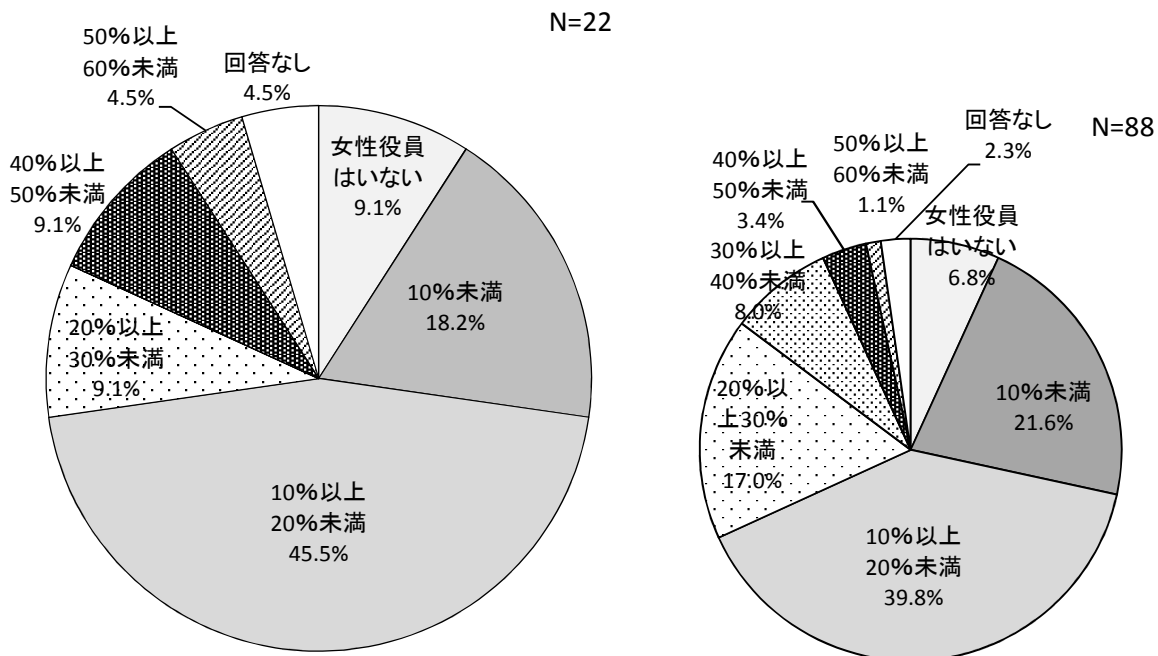
## 1. 自治振興区の女性役員の状況

【自治振興区アンケート】

(1) 役員数及び女性役員数の合計と女性役員の割合

	平成 27 年度	平成 21 年度
役員総数 (a)	454 人	1,744 人
女性役員総数 (b)	85 人	319 人
女性役員割合 (b/a)	18.7%	18.3%
自治振興区平均	16.7%	16.3%

(2) 女性役員の割合別



女性の役員が30%以上いる自治振興区は全体の13.6%で、平成21年度の12.5%と比べてわずかですが増加しています。しかし、女性役員がいない自治振興区も平成21年度6.8%から9.1%へと増加しています。

(3) 女性役員が就いている役職

役職名	回答数	備考
女性部長・女性部部長	7	
副区長・副会長	5	
専門部部長	5	老人福祉部、社会福祉部、農産加工部など
幹事	4	
監事	2	
会計	2	
その他		自治会長、事務局長、専門部副部長、監査委員

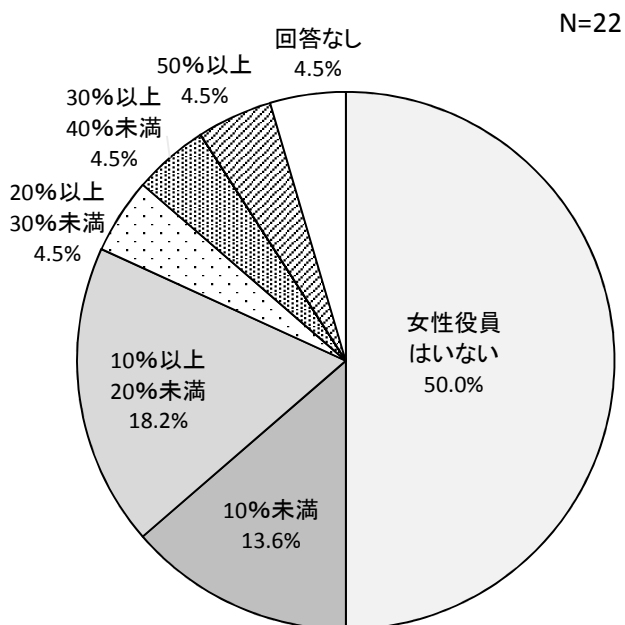
## 2. 自治会の女性役員の状況

【自治振興区アンケート】

(1) 自治会を代表する役職の人数及び女性役員数の合計と女性役員の割合

自治会代表総数 (a)	481 人
うち女性役員総数 (b)	85 人
女性役員割合 (b/a)	17.6%
自治振興区平均	9.2%

(2) 女性役員の割合別

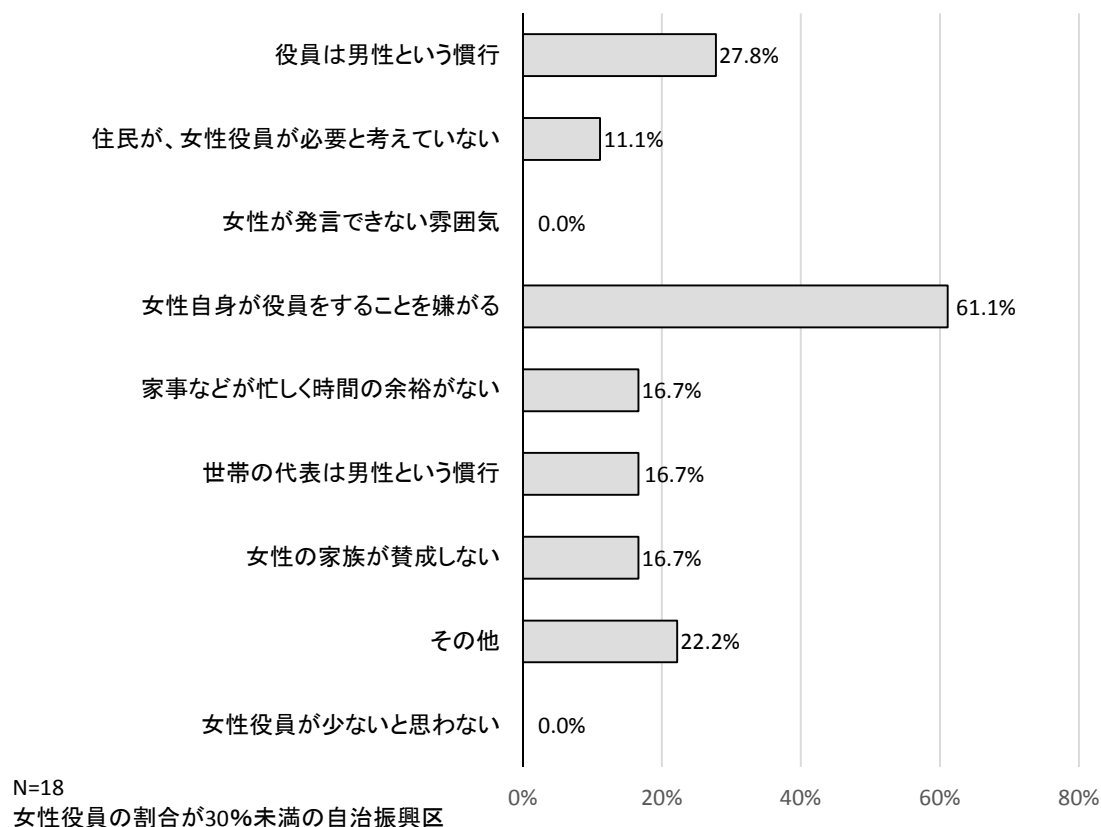


自治振興区の役員の状況と比較して、女性役員の割合は、自治振興区 18.7%、自治会代表 17.6%と全体では大きな差は見られませんでした。しかし、女性役員の割合別でみると、「女性役員はいない」と回答した自治振興区が半数を占めており、自治振興区によって、自治会代表への女性登用状況に差があることがわかります。

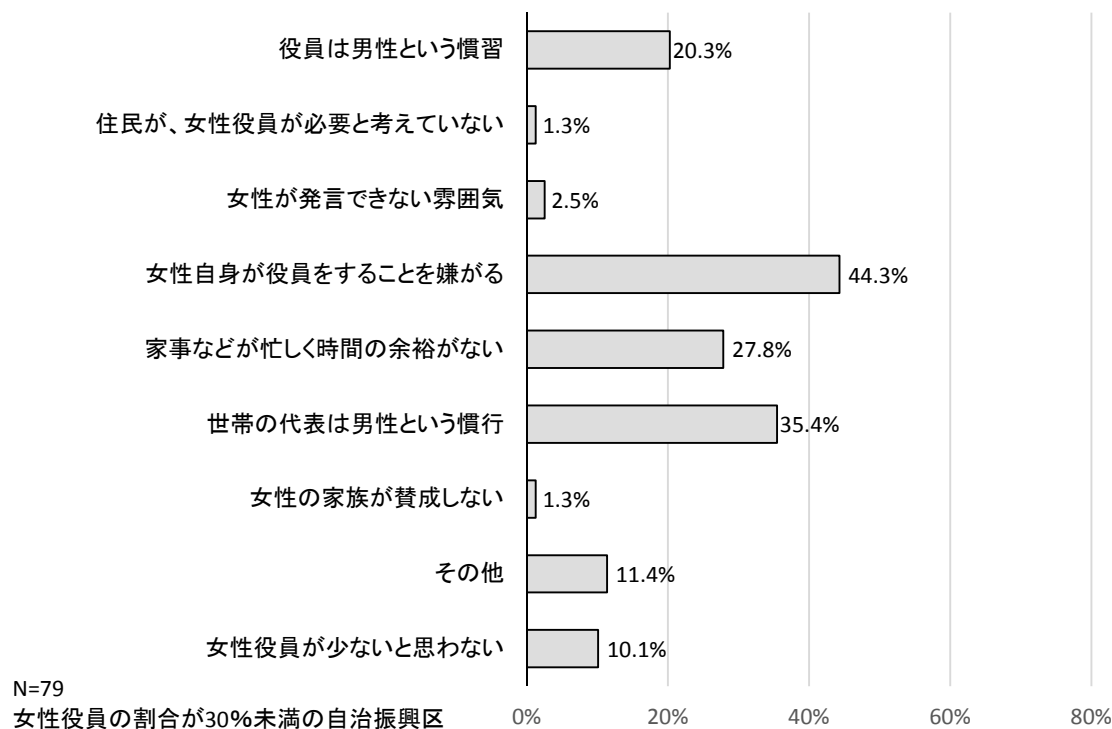


### 3. 女性役員が少ない理由

【自治振興区アンケート】



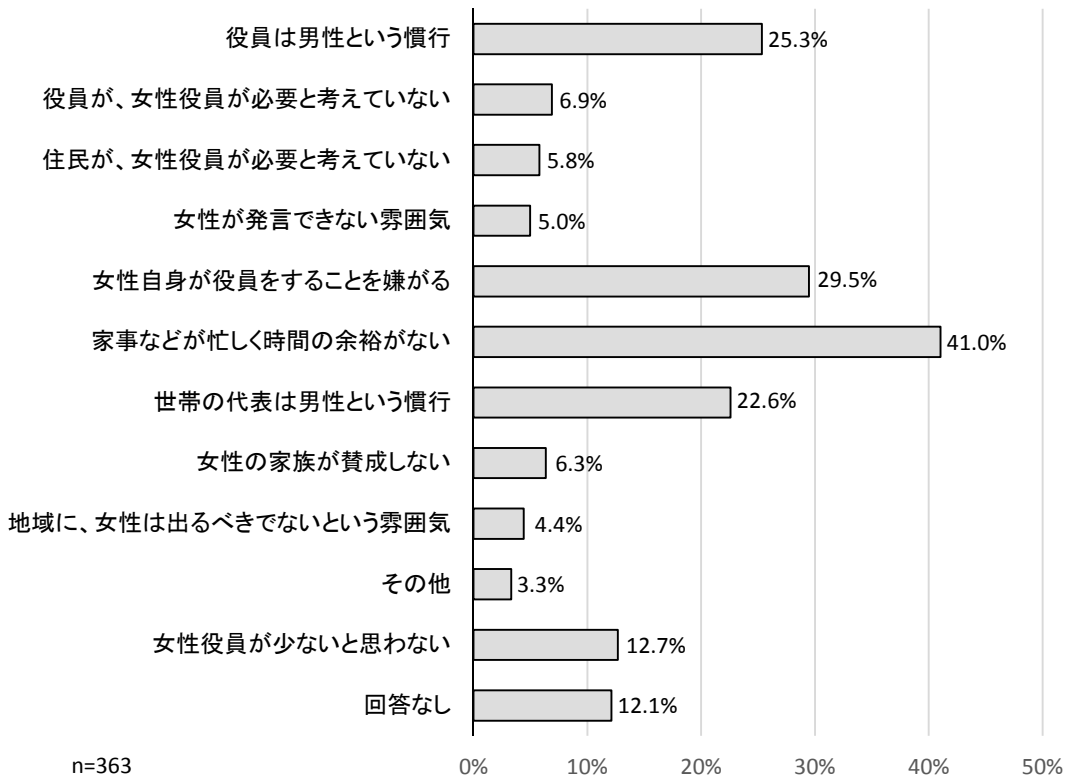
《参考 平成 21 年度》



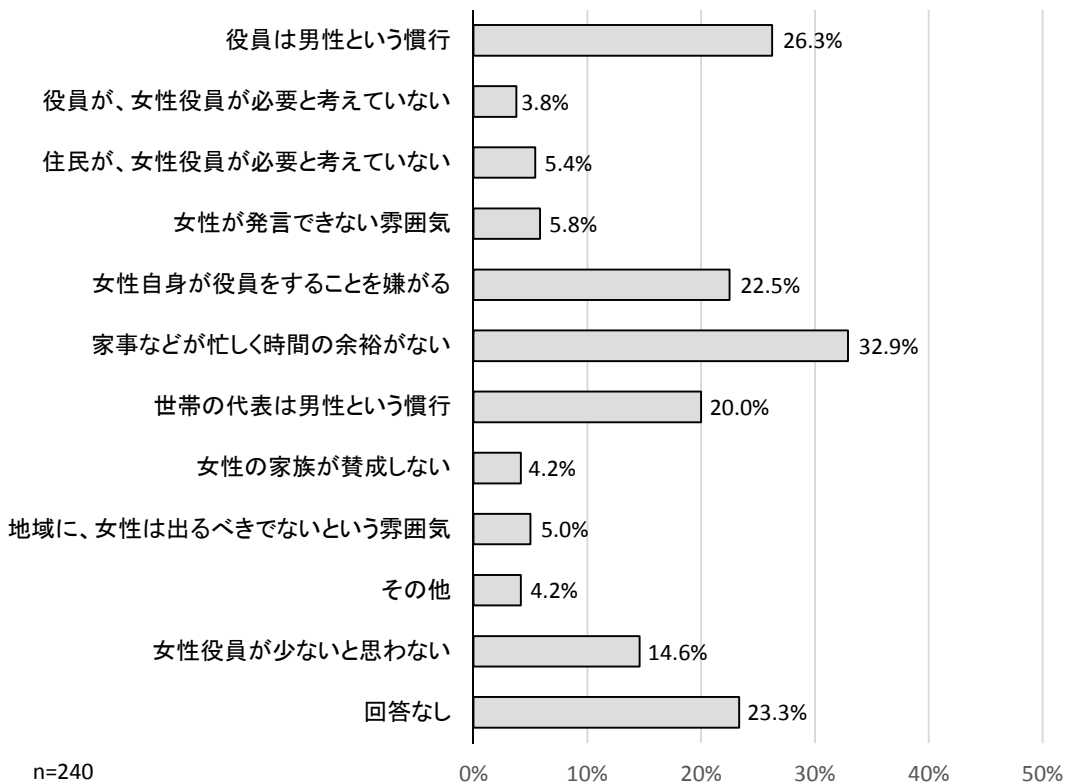
自治振興区では、女性役員が少ない理由について、「女性自身が役員をすることを嫌がる」が最も多く60%を超え、割合も平成21年度と比較しても高くなっています。一方、平成21年度に3割を超えていた「世帯の代表は男性という慣行」が大きく減少しています。

### 3. 女性役員が少ない理由（続き）

【市民アンケート】



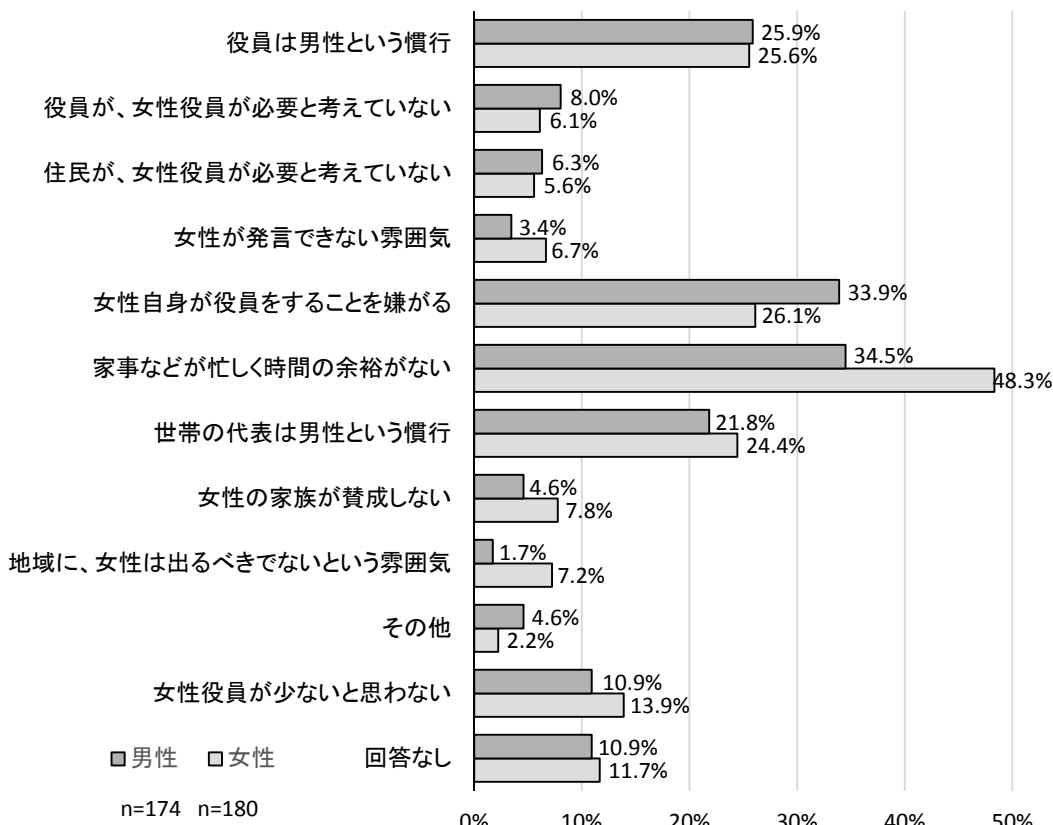
《参考 平成 21 年度》



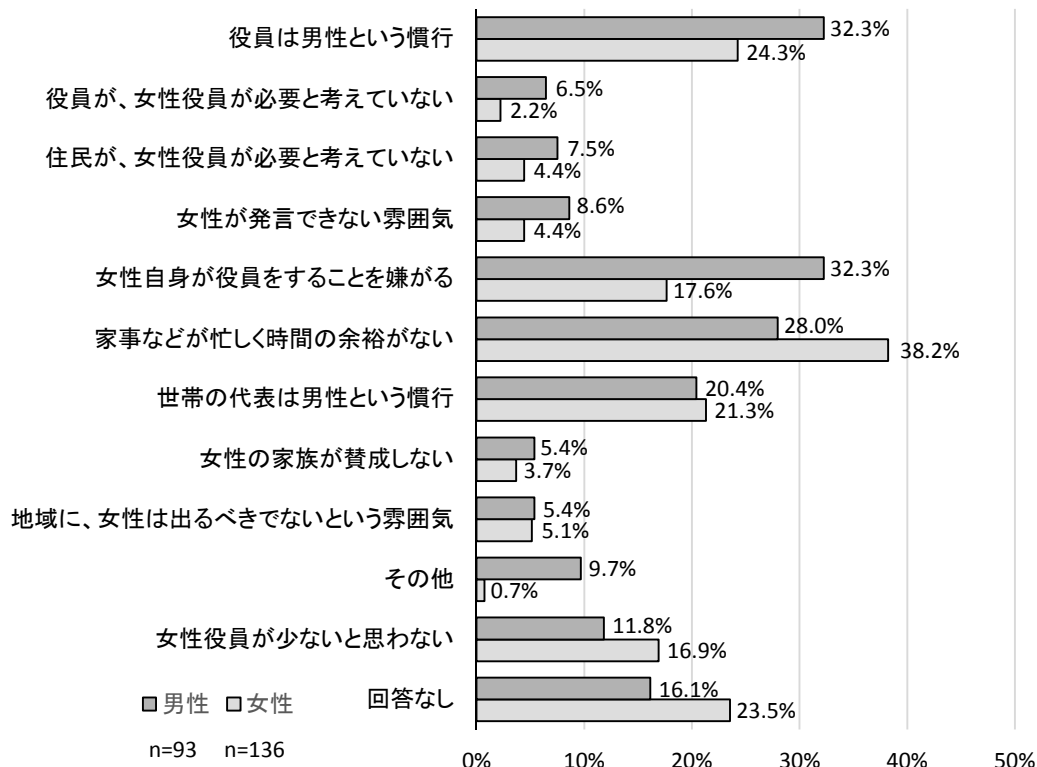
市民アンケートでは、女性役員が少ない理由について、「家事などが忙しく時間の余裕がない」との回答が最も多く、自治振興区アンケートとは異なる結果になり、平成 21 年度と比較してもその割合が増加しています。自治振興区で多かった「女性自身が役員をすることを嫌がる」がそれに続きます。

### 3. 女性役員が少ない理由（続き）

【市民アンケート】



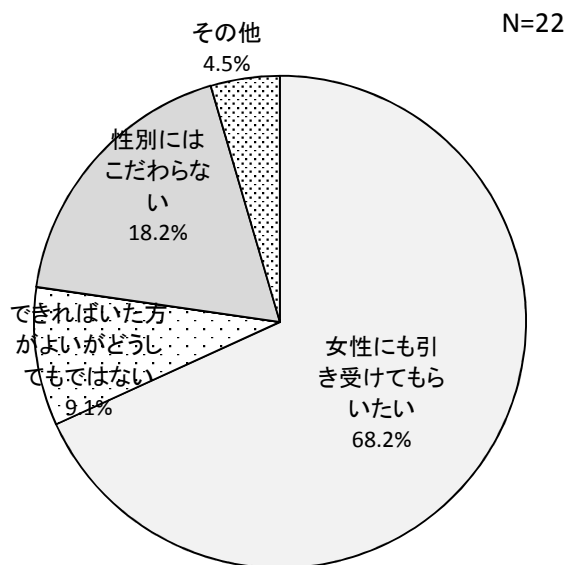
《参考 平成 21 年度》



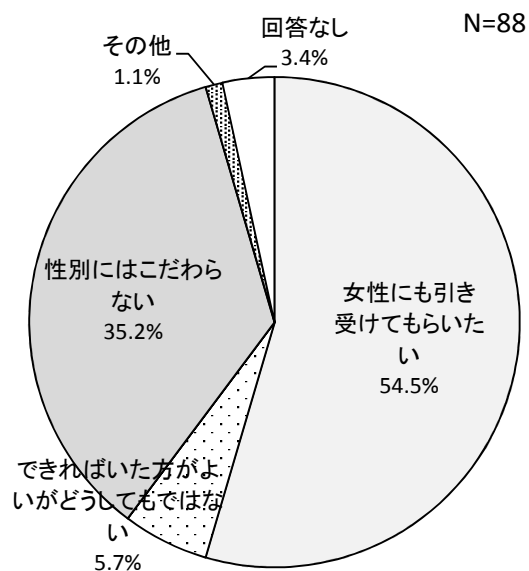
市民アンケートの結果を男女別に見てみると、女性では「家事などが忙しく時間の余裕がない」が最も多く5割近くを占めています。男性では、「家事などが忙しく時間の余裕がない」と「女性自身が役員をすることを嫌がる」が拮抗しています。女性が役員を引き受けるためには、本人のやる気だけでなく、家事の軽減等の環境づくりも必要であることがわかります。

## 4. 女性役員登用に対する考え方

【自治振興区アンケート】



《参考 平成 21 年度》

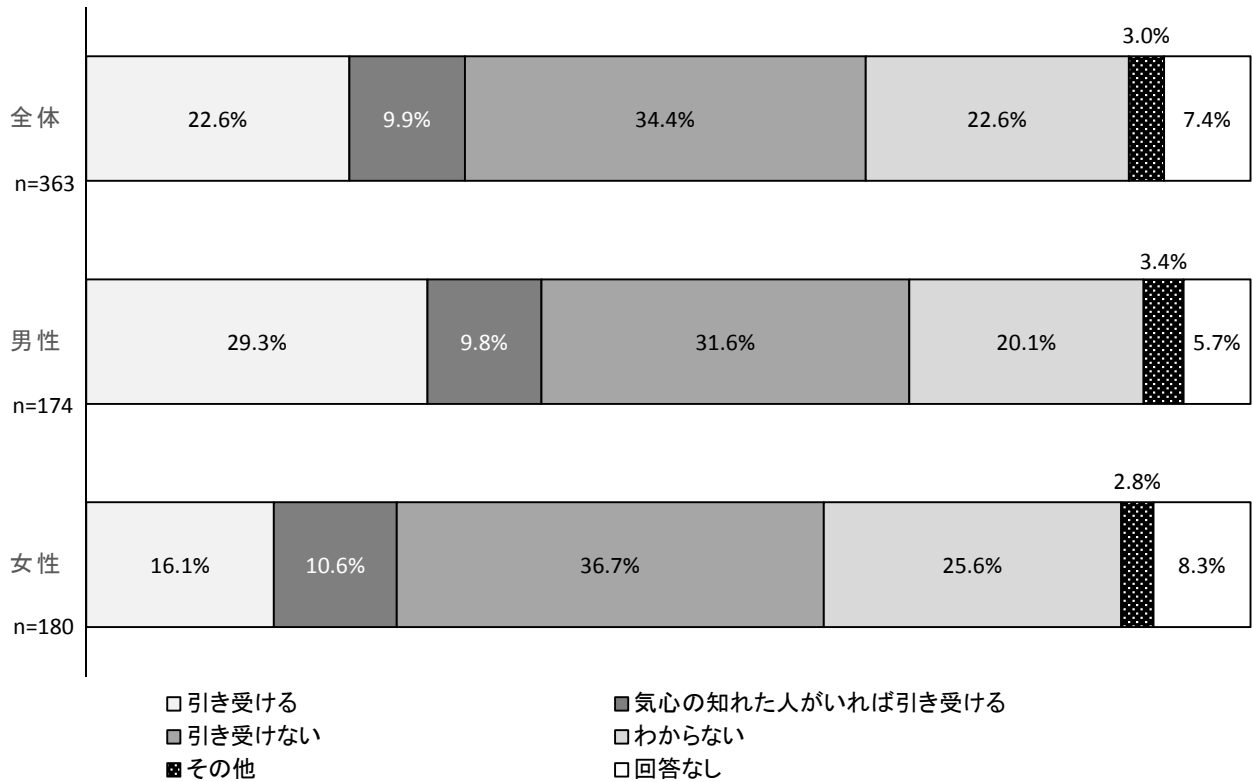


自治振興区では、「女性にも自治振興区の役員になってほしいと思うか」との問いに対して、約7割が「女性にも引き受けてもらいたい」と回答しており、平成21年度と比較して増加しています。

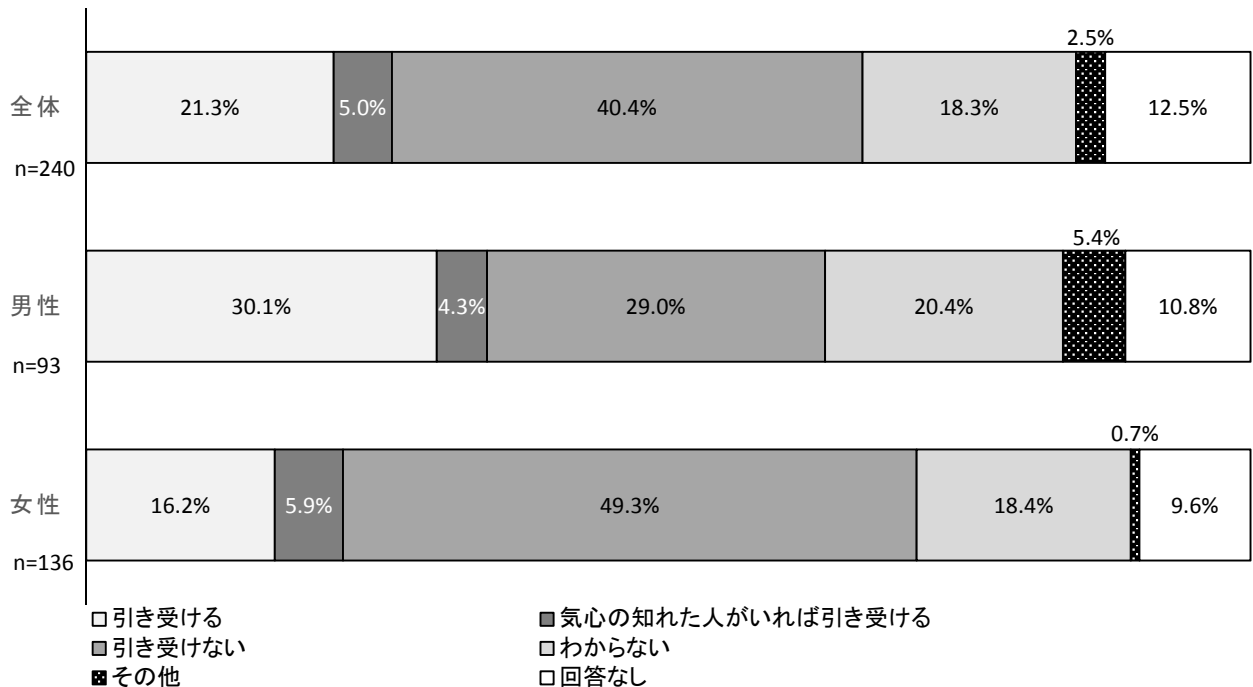
回答の理由として、「地域の人口の2分の1は女性だから。」「男女ともに暮らしやすい社会を作るため。」「いろいろな意見が出され、事業内容が充実できる。」「女性の発想力、行動力は自治振興区の活動には大切な知的資源である。」「男性ばかりだと地域の女性が出にくい。女性同士で声をかけあってもらえれば、たくさんの方に行事などに参加してもらえる。また、地域づくりに関心を持ってもらえる。」などの意見がありました。

## 5. 役員を引き受ける意向

【市民アンケート】



《参考 平成 21 年度》

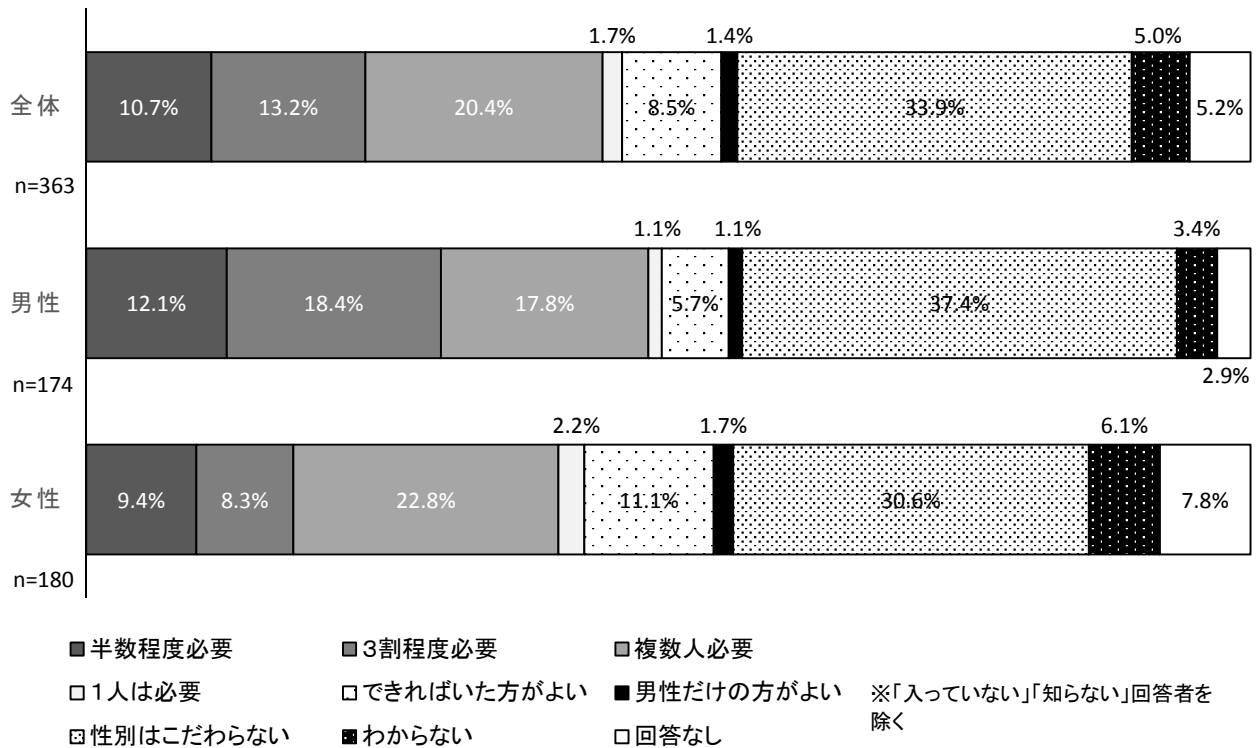


「自治振興区の役員などから役員要請を依頼された場合に、仕事や家庭は何とか都合がつく状況であれば、引き受けるか。」との質問に対して、男性の約4割が「引き受ける」または「気心の知れた人がいれば引き受ける」と回答していますが、女性は26.7%に留まっています。

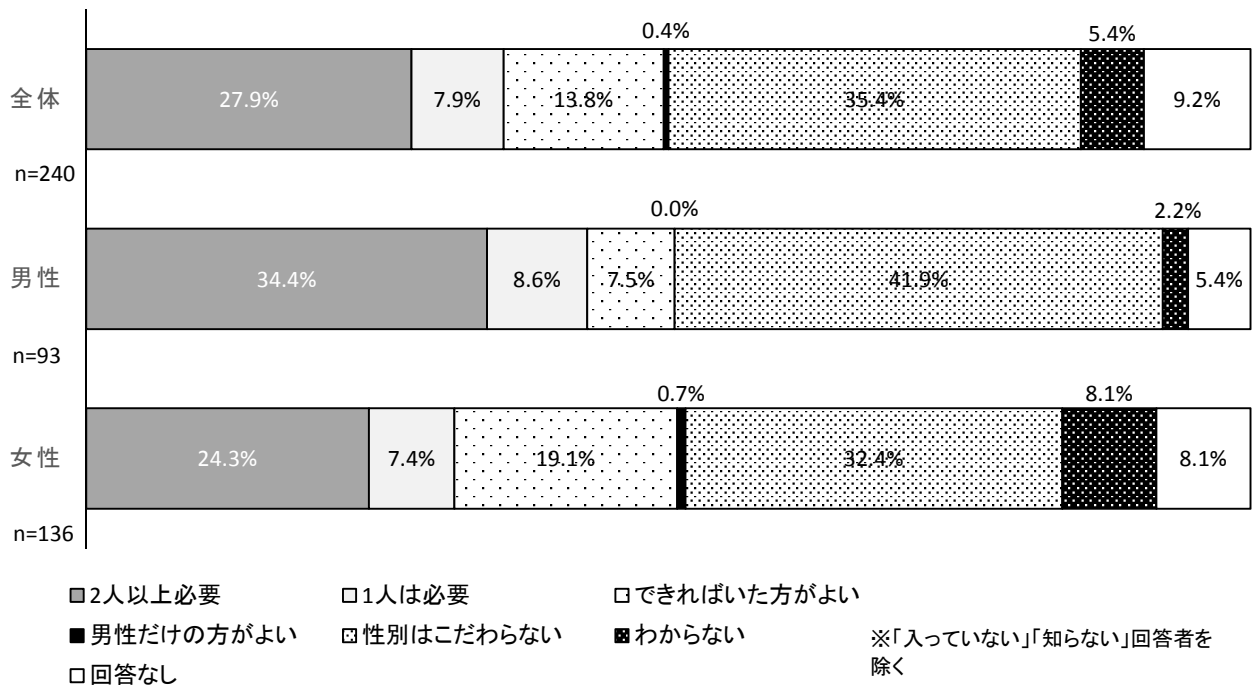
平成21年度と比較すると、引き受けるという意向の割合が増え、女性では「引き受けない」という回答が減少しています。

## 6. 女性役員の必要性

【市民アンケート】



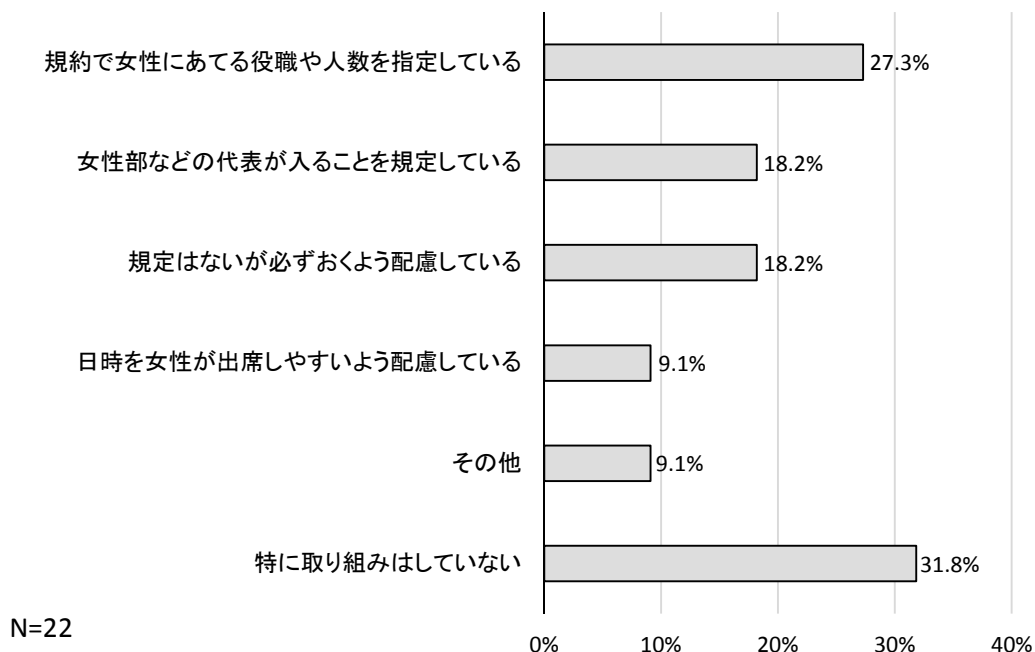
《参考 平成 21 年度》



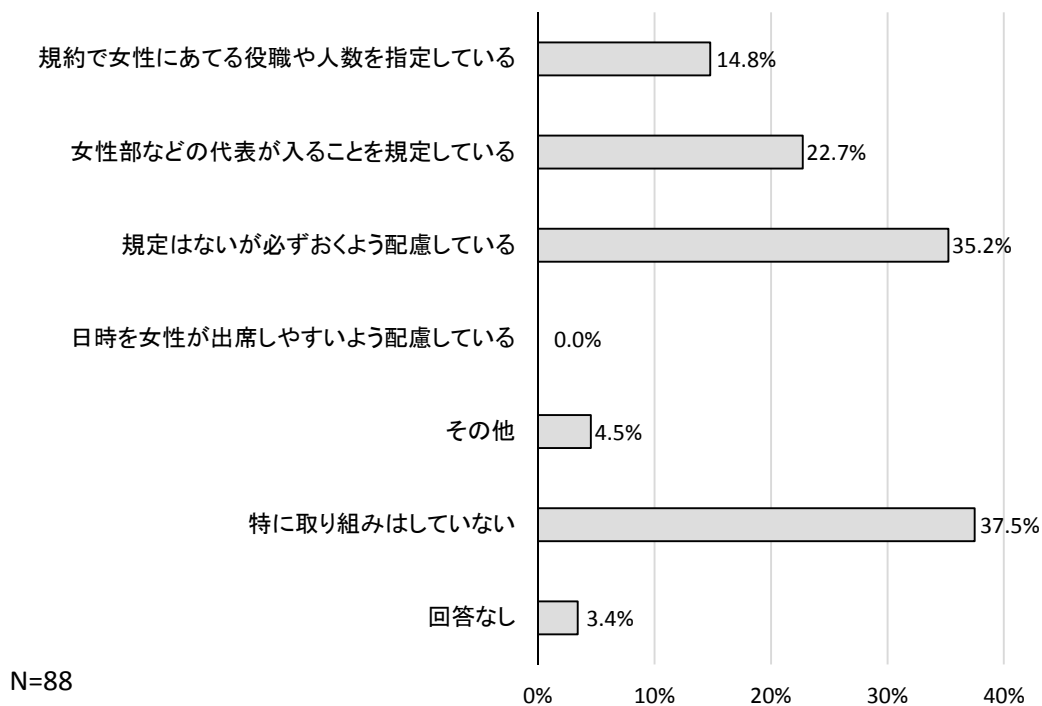
「自治振興区の役員の中に女性が必要だと思うか」との問いに対し、「女性役員が半数程度必要」、「3割程度必要」、「複数人必要」を合わせて、全体で 44.3%、男性では 48.3%、女性では 40.5%といずれも 4 割を超えており、男性の方が高い割合となっています。また、平成 21 年度の調査での「2人以上必要」と比較して増加しています。

## 7. 女性役員登用のための取り組み

【自治振興区アンケート】



《参考 平成 21 年度》



自治振興区の女性役員登用のための取り組みについて、「特に取り組みはしていない」との回答が最も多く3割を占めました。次いで、「規約で女性にあてる役職や人数を指定している」が続きます。平成21年度と比較して、「規約で女性にあてる役職や人数を指定している」が増加していることがわかります。また、21年度にはみられなかった「日時を女性が出席しやすいように配慮している」という回答がありました。

## 7. 女性役員登用のための取り組み（続き）

### 【市民アンケート】

「あなたは、自治振興区の役員に女性を増やすためには、自治振興区はどのような取り組みをしたらよいと思いますか。また、地域、女性の家族、女性自身はどうしたらよいと思いますか。」との質問に対する主な回答を主旨ごとにまとめています。

#### 自治振興区

- 女性が参加しやすいよう、会議の回数や日程などを見直す。（昼間や休日に設定する、など）
- 女性が参加しやすい、女性が主体となる行事を増やす。
- 女性をはじめ、幅広い意見に耳を傾けて、より多くの人に参加しやすい行事を工夫する。
- 女性役員の枠を設ける。女性役員の枠を増やす。（定数・割合など）
- 男女問わず、高齢者ではなく若手を起用する。
- 役員に負担がかかり過ぎないような体制にする。
- 役員改選の前に、自治振興区の代表者が、各自治会長へ女性登用の方針を示す。
- 地道に声かけをする。
- 広報などで自治振興区の事業内容をオープンにする。
- 男女共同参画を進める研修や話し合いをする。
- 男性が役員になるという慣行から意識を改革する。

#### 地域

- 誘い合わせて行事に参加する。
- 女性が集まれる機会を持つ。
- 日頃から地域での絆を大切にする。
- お互いに声をかけあって活動する。
- 自治会の役員にも女性を増やす。
- どの地域からも女性が出るように、偏らないようにする。
- 協力体制を作る。
- 家の代表＝男性という慣行を変える雰囲気づくり。

#### 女性の家族

- 家庭内の役割分担に配慮し、協力する。
- 家庭内で話し合い、理解する。
- 役員は家族で引き受けるという意識を持つ。
- 自治振興区の活動のことを知る。
- 女性を家にしばりつけない。

#### 女性自身

- 積極性を持つ。積極的にいろんな場に参加する。
- 自治振興区の活動に関心を持ち、理解する。
- 他人任せにせず、自分も地域の一員である意識を持つ。

自治振興区に女性役員を増やすためには、自治振興区の活動を知り、まずは「参加する」ことから、という意見が多く、そのためには、参加しやすい環境づくり、体制づくりが大切であるとの意見が多くありました。

このほか、「特に女性役員を増やす必要はない。」という意見がありました。「女性役員を増やす以前に、限界集落で何をするのも人手不足である。」「自治振興区自体が高齢化しているので行事等が成り立たない。」という意見や、「現状でも役員の半数は女性であるので特に増やさなくてよい。」という意見があり、地域によって状況に違いがあることがわかりました。